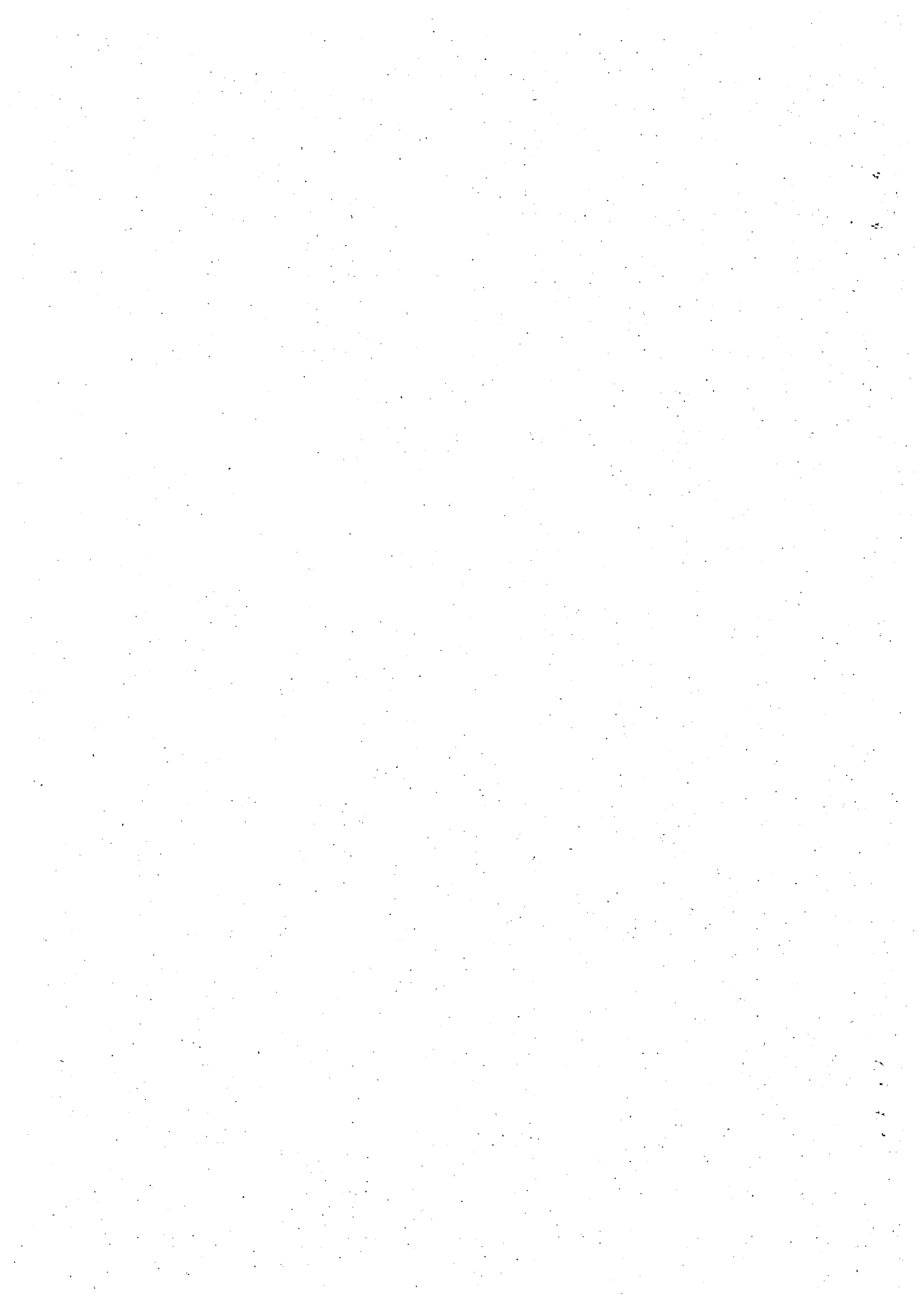


参考資料

令和3年度使用中学校用教科用図書 調査資料

第18採択地区教科用図書採択地区協議会



<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">2</p> <p style="text-align: center;">『新しい国語』</p> <p style="text-align: right;">東書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話す・聞く」「書く」「読む」を支える基礎的な力を鍛えるトレーニング教材として、「学びを支える言葉の力」を設定している。 ○各領域で身に付けたい素質、能力を「言葉の力」と題して、それぞれの領域で生かせるように教材間でつながりを持たせている。 ○「言葉の力」、「学びを支える言葉の力」を3年間見通しを持って学習できるよう、各学年とも、巻末に一覧を示している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材の学習を「目標」「問いかけ」「言葉の力」「振り返り」という統一した流れで構成し、「振り返り」を自分の言葉で記述することで深められるようにしている。 ○キャラクターを設定し、それらの話し合いに倣って、生徒同士の話し合い活動が深められるように言語活動を設定している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びの扉」という漫画ページを設け、親しみやすいキャラクターが生徒の学びを誘う設定になっている。また、Dマークを示した教材では、ウェブページに生徒自身もアクセスができ、様々な資料や練習問題が利用できるようになっている。 ○多分野にわたる問題や我が国の伝統にふれる教材を学ぶことで、国語学習を社会生活や人生に生かすという視点が貫かれている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言葉の力」を鍛え、身に付けることに重点を置いて構成されている。 ○3年間の学びを一覧にし、領域ごと、系統ごとに3年間の学習を見通すことができる。 ○他教科のつながりや、現代の諸問題を扱うことで社会や世界とのつながりを意識できる。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○6人の中学生男女の個性様々なキャラクターと、妖精が登場し、生徒に寄り添って課題解決していく構成になっている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Dマークがついた教材は、インターネットを介して、音声や映像資料を参考にして、補充問題や練習問題を家庭でも活用することができる。 ○「学びの扉」で学習課題を発見し、「学びを支える言葉の力」で課題の基礎を解決し、「読む」教材でその基礎を確認し、その確認した基礎を「書く」教材で実際に書くことで基礎を定着させ、「話す、聞く」教材で定着した基礎を応用できるような学習の流れを構成することで、学習効果を高めることができる。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○語彙を豊かにする「広がる言葉」、巻末に「言葉を広げよう」という類語資料を載せている。 ○テーマ読書、名作紹介、著名人の薦める読書など多彩な読書案内を掲載している。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○表紙に中学生男女が描かれ、教科書内でも6人の中学生キャラクターの存在があり、親しみやすい。 ○優しい色使いでわかりやすく表記されており、順番や上下段の区切り、重要項目など、見やすさが追求されている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○3学年とも、本編7単元、基礎編、資料編の三部構成である。巻頭には、前年までの既習事項と、当該学年で学ぶことが示され、巻末には3年間の「言葉の力」が領域ごとに一覧になっており、生徒自身が、今までの学習を振り返ったり、これからどのように何を学ぶか見通したりできるように示されている。

国語科調査資料 作成の観点

書名 項目	『現代の国語』 15 三省堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、習得したことを自覚して繰り返し活用することで定着するよう、各領域とも重視する観点や学習の方法を明確に示している。 ○各教材に、情報を的確に捉えて考えを深めるための「思考の方法」、教材の言葉をきっかけに多様な観点から語彙を豊かにする「語彙を豊かに」を設定するなどの工夫を凝らし、基礎的・基本的な知識及び技能が確実に習得できるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年の発達段階を踏まえ、課題解決的な言語活動を系統的に設定し、思考力・判断力・表現力等を高めることができるようにしている。 ○読むための方略を学ぶ「読み方を学ぼう」や、「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材に示した「学習のポイント」「思考の方法」など、「学び方」を学ぶための工夫を凝らし、汎用的な力を身に付けられるようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○確かな目的と見通しをもち、「学び方」を意識しながら学習を進め、学びの成果を実感することで、意欲的に取り組めるよう工夫している。 ○対話や考えの共有などの協同的な言語活動の場を設け、小グループの友達とともに学習の達成感を得て学ぶ意欲を高められるようにしている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年の最初の説明文教材はプレ教材として短い文章が折り込みの見開き3ページで示し、意識させたい説明文の「読み方」を具体的に理解させる。その「読み方」を、直後の教材で活用することで、確実に習得できるように工夫している。 <p><読書に親しむ態度を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年に「私の読書体験」を掲載し、読書の意義や効用に係る理解を深め、自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うようにしている。「読書の広場」にテーマごとに各学年47冊の図書を紹介したり「ビブリオバトル」「ブックトーク」などの読書活動を配置したりすることで、読書に親しめるようにしている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年巻頭の「領域別教材一覧」では、領域別に「教材名」「つきたい力」「言語活動」がマトリックスでまとめられ、各教材の冒頭には目標を明示し見通しをもたせ、最後には学習を振り返る機会を設けることで自己評価し次の学習に生かせるようにしている。 ○学習をサポートする役割をもったキャラクターを用い、知識・技能の理解や習得をスムーズに行えるようにしている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校3年間で身に付けたい「読み方」を22種類設定し、各教材文でどんな「読み方」を学ぶのかを意識して学習できるようにしている。学んだ「読み方」は、「話す・書く」の表現活動や他教科や日常生活での活用につなげることで、定着や習熟できるよう工夫している。また「読書の広場」の教材にはそれまでに学んだ「読み方」を活用する課題が設定され、二次元コードから「読み方」を活用した図解例を閲覧できる。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年に3箇所折り込みページ[最初の説明文・古典・巻末の「読み方を学ぼう」]があり、意欲喚起や理解の視覚的サポートの役割を果たしている。 ○各学年70ページほどの「資料編」が「情報を活用する」「古典芸能に親しむ」「社会生活に生かす」「参考資料」の4系統でまとめられ、学んだことを活用する意識を喚起する。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開き2ページで学習に必要な内容をまとめるレイアウトが多く、分かりやすい図解資料も多いので、学習のポイントを視覚的に整理しやすい。 ○特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材において、ページの上段に学習の手順を、下段に参考となる情報を示すなど、情報を分かりやすく整理して示している。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○1・2年生9単元、3年生8単元で構成され、巻末に約40ページの「読書の広場」と約70ページの資料編がつく。確かな言葉の力を自覚的に学び身に付けさせようとする意図がよくわかる。文章を正確に深く読むための技やコツである22の「読み方」を繰り返し確認し活用することを通して定着するよう工夫している。また情報と情報の関係を捉え、考えを整理したり深めたりする基本的な「思考の方法」を、図解を用いてわかりやすく示し、他教科等でも活用できる汎用性の高い学力として身に付けられるようにしている。

国語科調査資料 作成の観点

書名	17
項目	『 伝え合う言葉 中学国語』 教出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材文の前に「学びナビ」を設定し、「読み方」等の学習内容を認識して汎用性の高い学力を身につけるための手立てが示されている。 ○読むことの教材では「この教材で学ぶ漢字」「この教材で学ぶ言葉」、話すこと聞くことや書くことの教材では「表現のまとめ」を設定、さらに巻末折込に「表現に役立つ言葉」「理解に役立つ言葉」一覧を掲載することで語彙を豊かにし、理解や表現に活用して習得することにつながる。 ○「言葉の小窓」「文法の小窓」を入りに、日常的な場面から「解説編」につなげて詳しく学習できる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○読むことの教材では、「みちしるべ」として「内容を読み深めよう」「自分の考えを伝え合おう」が示され、読みを深めるヒントとなる。 ○読むことの教材の後に、読み取った内容や自分の考えを活用して表現をする教材が掲載されている。話すことや書くことでは時代に即したテーマが設定されており、実生活と関連付けた内容がみられる。 ○言語活動の「学びナビ」では、今回の活動の重点や、狙いを達成するための手順やヒントが示されており、論理的思考に基づいた表現力を育成できる。 ○全国学力学習状況調査や高校入試などを見据え、自分の力で様々な文章や資料を読み、表現する教材「学びのチャレンジ」が設けられている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「SDGs」を取り扱った教材が全学年に新設され、現代の多様な課題に、答えのない問いを投げかけ、意見を交流してコミュニケーション力を養いながら考えを深めることができる。 ○各学年でメディアと表現に関する教材を採用し、情報収集力や情報活用力を育成している。また、各学年で「メディアリテラシーと情報モラル」を扱う読み物資料が掲載されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の終わりに「広がる本の世界」として、各単元のキーワードに関わる本の紹介が掲載されている。 ○読書教材では、三大文豪のビジュアル解説資料が掲載されている。 ○1年生の古典は川柳や御伽草子など生徒の知っている昔話を導入としており、故事成語や『徒然草』の教材文が追加され充実している。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まなびリンク」として教科書にQRコードが示され、教育出版HPのデジタル資料を閲覧することができる。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○目次には、単元の内容や取り上げる話題のキーワードが示され、1年間の見通しを持つことができる。その後続く「言葉の地図」では、学ぶ内容と身に付けたい言葉の力が示されている。 ○「言葉の自習室」に、百人一首、十二支、思考ツール、年表、古典文法などの資料が収録されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○読書教材の注が同じページにあり、参照しやすい。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○読み物資料には、1行ごとに「・」、5行ごとに数字が示されており、新出・未習の漢字に読み仮名がある。 ○古典の言葉でイメージしにくいもの（髪上げ、裳など）には、絵をつけている。 ○言語活動の手順や注意点が多く示されており、1ページの情報量が多い。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年本編9単元（3年8単元）と、「言葉と文法」「言葉の自習室」「漢字」から構成されており、「自然」や「人権」など7つのキーワードが設定されている。 ○全学年にSDGsや情報・メディア、震災など、現代的な新しい内容が扱われている一方で、これまで読み継がれてきた作品も多く掲載されている。 ○巻末資料の充実や学びナビなどで言葉を意識的に用いるための工夫がされ、語彙力指導の充実を図っている。

国語科調査資料 作成の観点

書名	38
項目	『 中学校 国 語 』 光村
内 容	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の目次には、単元の内容を「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「読書」「情報」の6つに分類して示し、1年間の見通しをもつことができる。その後に続く「学習の見通しをもとう」では、「話すこと・聞くこと」のうち「議論」や「主張・提案」などといったように、更に細かく示され、単元を「思考力・判断力・表現力」「知識・技能」に再分類されていて、新指導要領に対応している。 ○教材下段の「語注」「新出漢字」「調べる言葉」など、多くの情報が整理して示されており、「新出漢字」は音読み・訓読みまで示されている。 ○基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、学習者が習得したことを自覚して繰り返し活用することで、定着するよう、学習の観点や学習の方法を明確にしている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年とも、巻頭に「思考の地図」として、「マッピング」や「ワールドカフェ」「チャート図」などの整理するための図など、「思考を広げる」「思考を整理する」「思考を深める」という目的に応じた思考の補助となるツールを、発達段階に応じて示している。また、教科書の中程に、「情報整理のレッスン」「思考のレッスン」として、その図などの具体的な活用が示されている。 ○「読むこと」の教材で、「見通しをもつ」「捉える」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」といった「問い」や「課題」が設定され、学びを深化させようとする意図が見られる。 ○各学年の最後に、3領域それぞれの「学習を振り返ろう」があり、学んだことを活用し、定着させるための問題が掲載されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の窓」として「読むこと」の単元では汎用的な読みのポイントを、図を活用して示し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、活動のポイントなどを示している。 ○「書くこと」の単元の前に、「書く」以前の「情報の整理」や「論理的な思考」について学び、「書く」につなげることができるよう設定されている。 ○スピーチでは、QRコードでスピーチの例が示され、どのようにスピーチしたらよいかイメージしやすい工夫がなされている。 <p>＜読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「続けてみよう」として、小説・映画などの「評価メモ」、市や文章の「アンソロジー」などの書き方が紹介されている。 ○教材の文末の下段に、本の表紙の写真、タイトル、作者名が掲載されている。また「本の世界を広げよう」として、「ファンタジー」「友達」などといった分類で、本の表紙の写真、タイトル、作者名、紹介文が掲載されている。 ○各学年に読書教材が設定され、宮崎駿、森絵都などが書いた「読書コラム」なども掲載されている。また「読書」の単元では、瀬尾まいこ、『西の魔女が死んだ』、『星の王子様』『君たちはどう生きるか』など、中学生の読書の入り口になりやすい本を部分的に載せ、続きの本へ入りやすくなるように紹介している。巻末にも読み物資料が掲載されている。
資 料	<p>＜学習意欲を喚起するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「季節のしおり」として、季節を味わう短歌や俳句、名分、語句などが載っている。 ○教材の中にQRコードが示され、「作者・筆者インタビュー」「話す・聞くの活動動画」「古典の朗読音声」「読書としてのウェブページ」「シジュウカラの鳴き声」など、その教材を学ぶことに役立つ様々な資料を、タブレット等で見られるよう設定されている。 <p>＜学習効果を高めるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文は独自のフォントを用い、小さな文字はユニバーサルデザイン書体（UD書体）で視認性を高めている。図表にも色覚特性への配慮をしている。 <p>＜レイアウトの工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材の「学習の窓一覧」を、「説明的な文章を読むために」「文学的な文章を読むために」「情報と情報との関係」「豊かに表現するために」「情報整理の方法」という形で再分類して巻末資料でまとめて掲載されているので、学んだことが整理しやすい。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習用語が使用語彙になるよう、単元の終わりにまとめられている。 ○1年生の古典の導入は、「いろは歌」や「古典の世界」等、有名作品の紹介から入っている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の単元では、見通しをもち、見つけ、活動を通して、試行錯誤する深い学びをし、振り返り、次につなげるよう、段階をおった「問い」が用意されている。 ○「SDGs（持続可能な開発目標）」と関連するテーマを取り入れ、分類しているが、教科書では分類を示していない。 ○「防災教育」「キャリア教育」を意識した教材もある。

国語科（書写） 調査資料

書名	2
項目	『新しい書写』 東書
内 容	<p>〈知識及び技能が習得されるようにするための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書写のかぎ」で基礎的・基本的な知識及び技能の習得が図れるように明確に提示している。 ○筆使いのポイントを始筆「とん」送筆「すー」終筆「ぴたっ」と表記している。運筆の感覚を擬態語で表し、捉えやすくしている。 ○毛筆では、穂先の動きを朱墨と薄墨（2色の濃淡）で示し、穂先の位置がよりわかりやすい。また、筆の流れを破線（…）でつなぐことでわかりやすくなっている。 ○教材ごとにまとめのページが設けられている。また「国語に生かす」「書写テスト」の項目があり、学習してきた内容を確認することができる。 <p>〈思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書写のかぎ」による解説によって、課題を意識しながら取り組める構成になっている。 ○「生活に広げよう」では、身に付けた知識・技能を国語や他教科の学習、生活の中で活用する場面を設定している。 <p>〈学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「書写で学ぶこと」で書写を学ぶ意義と学んでいく内容を把握し、見通しがもてるようにしている。 ○各学年の扉のページに1年間の学習を示し、さらに3年間を見通して書かれている。 ○将来に生きる書写を意識させる教材を設け、生徒がよりイメージできるようにしている。 ○各教材に「目標」を示し、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「生活に広げよう」そして「振り返って話そう」の流れで主体的に学習できるようになっている。また、『書写のかぎ』（文字を正しく書くためのポイント）で学ぶ内容を意識できるようになっている。 ○単元末の「振り返って話そう」では、目標に対する評価をするとともに、対話を通して学んだことを振り返ることで、次の学習への意欲につながるようにしている。 <p>〈毛筆と硬筆との関連〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○硬筆文字を題材に導入を図り、毛筆で書いて確認し、硬筆で他の文字を書くことで定着を図っている。 ○硬筆による「まとめ」のページがあり、毛筆で身に付けた力を硬筆で生かす学習活動が設定されている。 <p>〈各教科や社会生活との関わり〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活に広げよう」「文字のいずみ」の中で、様々な角度から文字に関連する題材を提示し、学んだことを生かす力が身に付くよう例を示しながら挑戦できるようにしている。
資 料	<p>〈学習意欲を喚起するための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「書写で学ぶこと」「学習の進め方」で書写学習の意義を確かめている。 <p>〈学習効果を高めるための工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末の「書写活用ブック」は様々な書式が紹介され、☆書写力アップという項目を提示。書くときのポイントがわかりやすい。 ○各手本の筆使いが動画で見られる。動画中にポイントが示され、ナレーションで解説が入っている。（真上からの映像）その他、関連する資料を活用することができる。（Dマーク） <p>〈レイアウトの工夫〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「小学校の学習を振り返ろう」を1年の学習の前に設け、復習や再確認できるよう効果的に提示している。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○色が抑えられており、見やすい。使われる色（青・オレンジ） ○学習のポイントや留意点、進め方をキャラクターが語りかける構成で知識・技能の理解や習得をスムーズに行えるようにサポートしている。（親しみやすい・楽しい） ○右利き、左利きに対応。教材文字が見やすいように教材が上で、書き込み欄が下になっている。 ○A B版で毛筆のお手本は、左側に設けられている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○A B版のワイドな紙面を活用して、図版を大きくして資料性を高め、書き込み欄を充実させている。硬筆、毛筆文字も色の濃淡や色味を調整し捉えやすくしている。各单元ごとに「書写のかぎ」で知識・技能を確実に習得、定着させ、さらに「生活を広げよう」でそれらを活用する場面につなげられるようにしている。「書写活用ブック」も同様な位置づけで活用できる。コラム「文字のいずみ」は文字文化に関わる興味深い内容が多く、充実かつ魅力的である。（各学年6～10）

国語科（書写） 調査資料

書名 項目	『 現代の書写 』 三省堂	15
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「書き方を学ぼう（一覧）」が巻末資料にあり、確認しやすくなっている。 ○点画の組み立て、外形が矢印やイラストでわかりやすくなっている。 ○見開き2ページで構成されている。 ○「見つけよう・考えよう」で行書の運筆がわかるよう、2色で濃淡がついている。 ○毛筆の運筆について文章で示し、意識化できるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○2年「楷書と行書の使い分け」で、いくつかの場面を設定し、目的や必要に応じた書体を選択して書くことについて考えさせる工夫がみられる。 ○教材ごとに「書いて身につけよう」「やってみよう」の学習課題を設け、学習したことの定着や応用・活用できるようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「1年生の文字」「3年生の文字」を比べるページがあり、3年間の成長を実感できる。 ○小学校書写の学習内容が整理されているだけでなく、高校の美術家書道へのつながりも取り上げられているため、小⇄中⇄高のつながりの中で基礎的な内容から発展的な内容といった幅広い学習者への対応ができる。 ○単元の構成が「目標を確かめよう」「書き方を学ぼう」「見つけよう・考えよう」「毛筆で書こう」「学習を振り返ろう」「書いて身につけよう」「自分の言葉でまとめよう」となっており、見通しをもって、学習を進められるようになっている。 ○「書き方を学ぼう」では、どこに気を付けて、どのように書けばよいかという「学び方」をわかりやすく示すことで、学ぶ意義を自覚しつつ、自学等で活用できる。 ○硬筆による書き込みページが日常生活で活用しやすいものとなっている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の学習内容を硬筆で繰り返し確認できる書き込みページがある。 ○毛筆学習のあとに硬筆で確かめる「書いて身につけよう」を設けている。この振り返りで、学んだことを振り返るだけでなく、自分の言葉でまとめるように工夫されている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○アルファベットや数字の練習ができる。 ○グループ新聞、情報誌を作ろう。便箋・封筒の書き方、はがきの書き方、送り状・のし袋、願書、原稿用紙の書き方。 	
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○イラストや写真が多用されている。 ○学校生活や日常生活と文字とのつながりが紹介されている。 ○基本の姿勢等に関して動画が見られる。 ○常用漢字表が楷書と行書で掲載されている。 ○各教材が見開きで構成されており、目標やポイントがつかみやすい。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料編では、日常の書式で生活に必要な文字を書くことの紹介がされている。 ○「書写の広場」では、楷書、行書一覧表と、毛筆補充教材が載っている。 ○「書き方を学ぼう（一覧）」が巻末資料があり、確認しやすくなっている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○イラストと写真が効果的に使われている。 ○各教材を見開き2ページで構成することで、何をどの順番で学習するのかわかりやすい。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○点画の組み立て、部分の組み立て、外形、文字の大きさ、配列が矢印やイラストで視覚的にわかりやすくなっている。 ○記号や注意事項が見やすい色である。 	
総 括	<p>単元の構成が7つの項目からなっており、見通しをもって学習を進められるようになっている。また、点画の組み立て、部分の組み立て、外形、文字の大きさ、配列が矢印やイラストで視覚的にわかりやすくなっている。さらに「書き方を学ぼう（一覧）」が巻末資料にあり、確認しやすくなっている。</p>	

国語科（書写） 調査資料

書名	17
項目	『中学書写』 教出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆の基本の筆遣いは「考えよう」の中で朱墨、薄墨の二色で示されている。穂先の動きを筆の画像で示し、筆順・中心線・筆の動きの矢印も示されている。 ○書写テストがさいごにあり、書写の知識が身につけているか確認できる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」の問いで思考力を伸ばし、「生かそう」で判断力や表現力に結びつけている。 ○「学習を生かして書く」「学校生活に生かして書く」の単元が設けられていて、習得した知識や技能を活用して書く学習内容が設定されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の学習過程によって見通しをもって主体的に取り組める。自己評価項目が二段階で簡単にできる。 ○課題選択教材や、補充教材により、生徒自ら課題解決に向けて取り組めるようになっている。 <p><毛筆と硬筆との関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆単元の最初に硬筆を書き、「生かそう」で再度硬筆の書き方を確認することで、字形や運筆等の特徴を捉えさせ、毛筆・硬筆の書く力を向上させようとしている。 <p><各教科や社会生活との関わり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○他教科のノートの取り方が複数取り上げられている。 ○日本の季節や年中行事、歴史に関連した題材や文学作品（国語教科書教材に掲載）が多く紹介されている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○イラストや写真が多用されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各手本の筆使いを動画で見られる。一つのQRコードですべて見られ、真上から映しているのので、実際に自分が書いている映像に近い。 ○巻末の「書式の教室」には社会生活に生かせる内容が多い。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本単元が見開き2ページで構成されていて、見やすく使いやすい。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学年のページを緑・朱・青の三色で分類している。 ○色が抑えられ、判読しやすい配色になっている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○AB版。 ○筆順や中心線などの基本がすべての手本に書かれていて字形を意識して書くことができる。 ○「考えよう」「生かそう」「話し合おう」で生きてはたらく書写力、国語の表現力を高める事ができる。

国語科（書写） 調査資料

書名	38
項目	『 中学書写 』 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学習の窓」で、学習のポイントをわかりやすくし、身に付ける力を意識できるようにしている。 ○「確かめよう」で、毛筆の筆の動きや穂先の位置がわかるように2色で濃淡をつけた字が示され、運筆の説明文と始筆、止め、結びの筆の写真を用い、実際の筆使いの特徴をわかりやすく示している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」では、生徒が書き込んだり、話し合ったりして学習課題について考える時間を設定している。 ○「楷書と行書の使い分け」「文字の使い分け」では、目的や必要に応じた書体の選択について考えさせたり話し合わせたりする工夫が見られる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えよう」「確かめよう」「生かそう」によって学習の見通しをもち、考えてから毛筆や硬筆で書いて日常に生かす学習に主体的に取り組むことができる。 ○「日常に役立つ書式」で、学校生活や実社会で活用できる書き方が確認できる。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○硬筆練習帳である「書写ブック」で、毛筆教材文字と同じ学習要素をもつ硬筆課題を設定し、練習できるようにしている。 ○文字に関する資料や書写の力を学校生活などで行かせる例を数多く示している。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の初めにある「考えよう」で、生徒が書き込んだり、話し合ったりする課題を設定していて、学習ポイントをとらえやすい。 ○「中学生のための漢字字典」に「常用漢字表」「人名用漢字表」が楷書体、行書体併記で掲載されている。また、「人名用漢字表」が画数順に配列されており、「部分別行書一覧」も掲載され、活用しやすくなっている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本の姿勢、毛筆の手本ごとにQRコードがついており、筆使いを動画で見ることができるとある。 ○「確かめよう」で筆使いの写真を提示し、「トン スー トン」のリズムや筆圧を「1 2 3」で表し、点線で運筆や必脈を示すなどしてわかりやすくしている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○毛筆学習は、単元の最初の2ページで「考えよう」「確かめよう」「生かそう」を基本として学習を進め、次の2ページで手本を示している。 ○行書の基本教材では、半紙原寸大の手本を掲載しており、中心線を示す記号もある。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○書体や色使いにユニバーサルデザインを用い、見やすくなっている。 ○キャラクターや吹き出しの色使いが抑えられ、紙面がすっきりし、内容を把握しやすい。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○B5版の教科書となっている。単元の目標設定が明確であり、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」「学習を振り返る」という一連の学習の展開が、生徒の主体的な学びの流れを作っている。また、「学習の窓」で学習のポイントも明示しているので、何を学習しているのか意識しやすい。毛筆の筆使いについても説明や資料が工夫されている。「書写ブック」の活用で一層効果的な学習が期待できる。さらに文字文化や日常生活での文字の活用を意識させる教材も豊富である。

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">2</p> <p style="text-align: center;">『新しい社会 地理』</p> <p style="text-align: right;">東書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体を通して、見開きページの右下に「チェック」「トライ」が設けられていて、1時間で習得すべき地理的特色をつかむヒントが明示されている。 ○「集める」「読み取る」「まとめる」といった、技能を活用するコーナーが設けられていて、資料活用能力が高められるようになっている。 ○「スキルアップ」では、地理的技能の着実な習得のために、生徒の発達段階に合わせて難易度が設定されていて、段階的に高められるような配置になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元のまとめとして、様々な思考ツールが使われていて生徒が思考を整理しながら学びを深め、課題の解決に迫れるようになっている。 ○「見方・考え方」コーナーが設置されている。生徒が「地理的な見方・考え方」を働かせながら学びを深められる工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「世界の諸地域」「身近な地域」の学習ではSDGsが取り上げられており、現代的な諸課題を理解し、解決しようとする態度を養うことができる。 ○教科書全体を通して「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つの現代の諸課題を意識しながら学習を進められるように工夫されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「単元を貫く課題」が設定されている。各見開きにも学習課題が設定されていて、問いが構造化されていて、学習の流れが捉えやすい構成である。 ○小学校4年間で学んだ内容との関連や、歴史的・公民的分野との関連が意識できるように工夫されている。 ○過密地域（川口市）と過疎地域（東秩父村）の人口ピラミッド、関東平野に広がる畑作地域（三芳町）など、県内の資料を取り上げている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体を通して、見開きページには「地理にアクセス」「考える」などのコーナーがあり、学習意欲を喚起する工夫がされている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「探究活動」に関連する写真が掲載されていて、生徒が学習する地域のイメージを持てるように工夫されている。 ○小グループで話し合うための「みんなでチャレンジコーナー」が設けられていて、他者の意見を聞いて自分の意見を深められるようになっている。その話し合うべき内容も課題に迫るものが設定されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙面の半分以上が地図や写真、グラフなどの資料になっていて生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。 ○本書全体を通して、どの単元においても人々の生活の様子が伝わってくるような迫力ある写真が使われていて、生徒が地域の生活をイメージしやすい工夫がある。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての文字にUDフォントを使用しており、ふりがなはゴシック体で見やすい。 ○地図、写真、グラフなどの資料を比較したり、関連付けたりしやすいような配置に工夫されている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの半分以上が地図や写真などの資料になっていて、生徒の興味関心を強く引く構成になっている。 ○基礎的・基本的な知識、概念や技能を身に付けながら、それらを基にして多面的・多角的な思考力・判断力・表現力を高める工夫が随所に織り込まれている。本書を学ぶ過程で「なぜ」という問いを立て、それにこたえる学習を通して、持続可能な社会の形成に参画する生徒を育成する工夫がされている。

社会科（地理的分野）調査資料

作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">17</p> <p style="text-align: center;">『中学社会 地理 地域に学ぶ』</p> <p style="text-align: right;">[教出]</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体を通して、見開きページ左側に学習課題が明示され、右下の「確認!」「表現!」で本時の学習の重要語句、基礎的な事柄を抑えられるような流れになっている。 ○抽象的な用語、理解しづらい用語は巻末の「用語解説」で詳しく学ぶことができる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読み解こう」というコーナーで資料を丁寧に読み込んだ後、それらを活用してまとめにつなげられるように工夫されている。 ○「地理の窓」「地理の技」など充実したコーナーで「見方・考え方」を働かせる工夫がされている。「位置や広がり」「結びつき」などの視点を与える工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会に参画する意識を高め、持続可能な開発に対する豊富な資料、コラムが用意されており、生徒が主体的に取り組めるよう、SDGsの視点で、領土問題、EUの統合・離脱について多面的・多角的に扱っている。 ○「地域調査の方法を学ぼう」「地域の在り方」を学習していく過程で、地域の実態や課題の「見える化」を図り、その解決方法について地域の方々と交流する場面が例示されていて、地域社会への参画意識が高まるように工夫されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○三分野の学びを関連させ、社会をより深く理解できる構成になっている。「関連」マークや、関連する用語を紙面に載せる工夫がされている。 ○小・中・高の学びのつながりを意識した構成になっている。特に小学校の学びの振り返りがあり、中学校での学習内容との関連がわかるようになっている。 ○工場で働くベトナム人の写真（加須市）、首都圏外郭放水路の写真（春日部市）、国内最高気温を更新した熊谷市の写真、さいたま新都心写真、京浜工業地帯と北関東工業地域の写真（本庄市）、ブルーベリー狩りを楽しむ観光客の写真（美里町）など、県内の写真が多数用いられている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Look!」では、導入資料に詳細な解説が載っていて、生徒の興味関心を引く工夫がされている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小単元の最後に「意見を交換しよう」というコーナーがあり、この単元で習得した知識を持ち寄って話し合い、高めあう場面が意図的に設定されている。 ○デジタルコンテンツが設けられている。二次元コードを読み取ると外務省や関係団体のHPを見ることができ、さらに詳しく調べることが容易になっている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙面の大部分を写真や地図、グラフなどの豊富な資料が用意されていて、生徒の興味・関心を引く構成になっている。 ○資料にはタイトルだけでなく、小さな問いが示されていて、関心を持って取り組みやすいような工夫がされている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文字はUDフォントによる黒文字を使用している。 ○見開きページごとに学習課題が設けられている。本文と資料の関連を番号で示すことで、本文と資料が結びつきやすくなるように工夫されている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の最後に設定されている「表現しよう」「意見を交換しよう」というコーナーを活用して学習を積み重ねていけば、思考力・判断力・表現力などが着実に身につくような構成になっている。 ○章・節といった「内容のまとめり」ごとに見通し・振り返りの場面が設定されていて、一連の学習を通して段階的に学習を深められる構成になっている。

社会科（地理的分野）調査資料 作成の観点

<p>書名 項目</p>	<p>『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』</p> <p style="text-align: right;">4 6</p> <p style="text-align: right;">帝国</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きで1時間の内容が「導入」→「学習課題」→「本文」→「確認しよう」・「説明しよう」という展開で構成されている。その中で基礎的・基本的な知識、技能を習得できるように工夫されている。 ○抽象的な語句、補足説明が必要な語句については、そのページの欄外に「解説」コーナーが設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章末に設定されている「学習を振り返ろう」では、単元を貫く課題に対して章の学習で得た知識を生かし、地理的な「見方・考え方」を働かせながら思考力・判断力・表現力を発揮して解決に導く構成になっている。 ○見開きの右下に「確認しよう」「説明しよう」というコーナーが設けられていて、本時の問いに対して毎時間思考力・判断力・表現力を育成できる構成になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「未来に向けて」や「地域の在り方を考える」などの特設ページでは、SDGsの視点を取り入れられていたり、実際の取組などが掲載されていたりして、よりよい社会を実現しようという態度を養う工夫がされている。 ○本書を学習していくことで今日的な課題へ意識が高まる構成になっている。「環境」「防災」「人権・平和教育」「グローバル化」「少子高齢化」「情報化」について随所に特設コーナーが設けられている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本書には「この教科書の学習の仕方」が掲載されており、家庭学習がしやすいように構成されている。また、随所に二次元コードが設けられ、自宅でもより深く学ぶことができる。 ○日本最大級のショッピングセンターの写真（越谷市）、住宅地や畑が広がる関東平野の写真（深谷市）、首都圏外郭放水路の写真と地図（春日部市）、東京大都市圏の地価の比較のグラフ（所沢市）、政令指定都市としてのさいたま市の学習など、県内の資料が多数用いられている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各見開きページの左上の写真等の資料が紙面の半分近くを占めている。その資料には簡単かつ重要な問いが明示されていて、学習意欲を喚起させる工夫がある。 ○世界と日本の諸地域学習の導入には、「写真で眺める〇〇地方」が設けられており、興味関心を引く工夫がされている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙面の使い方、展開が統一され構造化されている。 ○写真や図版、本文を密接に関連させていて、地理的事象や因果関係を読み取りやすい構成になっている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き紙面の半分以上が写真やグラフ、地図などの資料になっている。また、関連付けて考えられるようにレイアウトが工夫されている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○文字はUDフォントを使用している。 ○地図の色使いに関しては、濃淡がはっきりしているので高低差がわかりやすい。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地理的な「見方・考え方」を自然と働かせるように、写真や図版、本文を密接に関連させていて、地理的事象や因果関係を読み取りやすい構成になっている。持続可能な社会に向けて、生徒自身がどのように参画していくか発展的に考える場面も設定されている。 ○デジタルコンテンツが充実している。各章の最初のページに張り付けられている二次元コードを読み取ると、NHK for schoolのサイトにアクセスし、動画を見ることができる。

社会科（地理的分野）調査資料 作成の観点

書名	116
項目	『中学社会 地理的分野』 [日 文]
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○提示されている資料を読み取らせて関心を高めるだけでなく、深く読み取るための問い「資料活用」が、資料の下に示されていて、資料活用の技能を高めるよう工夫がされている。 ○見開き左側に明示された学習課題で何を学ぶのかが明確化され、課題について学んでいく過程で知識及び技能が習得される構成になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災や地域的課題の解決など、習得した知識を活用して思考力・判断力・表現力を発揮する場面が意図的に設定されている。 ○導入ページに設けられている「クイズ？」や振り返りの時間に設定されている「自由研究」など、思考力・判断力・表現力を発揮する場面が設定されていて、繰り返し学習することで生徒が自分の言葉で表現する力が身につくよう構成されている。 ○見開きページに学習課題が設定されている。特色としては学習課題を解決するために働かせる「見方・考え方」が毎時間課題の下に示されている。これにより、生徒は常に「見方・考え方」を意識しながら学習を進めることができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の終わりに、地域的課題や現代の諸問題に対して自分の意見をまとめる時間が設けられており、よりよい社会を実現しようとする態度を育めるような工夫がされている。 ○「地理+α」のコーナーが設けられており、日本や世界の今日的課題について生徒が主体的に考察することができる教材が用意されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ページの下に「小学校との関連」や「歴史との関連」が示されていて、小学校からのつながりや、他分野とのつながりを意識できるようになっている。 ○内陸型の工業地域の写真（川越市）、政令指定都市（さいたま市）、衛星都市の住宅地の写真（桶川市）、さいたま新都心の写真等、県内の資料が多数使用されている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「チャレンジ地理」では、ディベートや、自分の考え、自分と反対の考えなど、主体的な学びを促して、様々な問題を自分事として考え、深めていく工夫がされている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本書全体にわたって、導入→大観→主題学習→振り返りといった学習の流れが統一されていて、生徒の活動も具体的に示されているため、繰り返すことで学習効果を高められるよう工夫されている。 ○小単元末に設けられている「アクティビティ」では、ウエビングマップや関係図づくりなどの思考ツールが多用され、学習効果を高める工夫がされている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○何を学び、どう深めるかといった思考の流れに沿ったレイアウトになっている。そのため、学習に見通しを持たせることができる。 ○世界の各州・日本の各地方の学習では、主題学習・動的な学習を進めるよう工夫されており、地域的特色を確実に捉える構成になっている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○文字はUD フォントを使用している。巻末に用語解説を設け、地理的用語を「農林水産業」「人口」など6種類に分けて解説している。 ○本文は平易な文章で、抽象的・羅列的な文章を避けて具体的に記述されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○本書の特色は、学習課題を解決する際に、働かせる地理的な「見方・考え方」を明示させている点である。特に、「位置や広がり」を使うのか、「結びつき」を使うのかなど、地理的な「見方・考え方」が自然と意識される構成になっている。 ○豊富な事例と実践的な学びを通して、防災についても学べる工夫がされているなど、地域の在り方を考えることができる構成になっている。

社会科(歴史的分野)調査資料 作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">2</p> <p style="text-align: center;">『新しい社会 歴史』</p> <p style="text-align: right;">東書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&トライ」で構成されている。また、小学校の学習事項が年表に位置づけられている。 ○学習に必要な技能を習得させる「スキル・アップ」が設けられている。また、習得した技能を活用する「読み取る」「まとめる」などのコーナーが設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのまとめ「チェック&トライ」では、学習内容の説明や要約、原因や結果をまとめたりする等、事象を解釈して表現できるように工夫されている。 ○章末「まとめの活動」では、「クラゲチャート」、「Xチャート」、「ピラミッドストラクチャ」等の思考を整理するための思考ツールを活用した学習活動が設けられている。 ○「見方・考え方」のコーナーを設けたり、マークを付したりすることで、歴史的な見方・考え方を働かせてより深く思考・判断できるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1単位時間の学習で追究する学習課題を示し、生徒が見通しをもって主体的に学習を進められるように工夫されている。 ○生徒キャラクターの会話で、生徒が探究課題を主体的に解決するヒントが示されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県に関する教材として、稲荷山古墳、渋沢栄一を取り上げている。 ○デジタル教科書やデジタルコンテンツが豊富である。生徒がつまづきやすい学習内容の理解を助けるために、「D マークコンテンツ」が設けられている。QR コードを読み取ることで詳しい解説で定着が図られるよう工夫されている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に、学習意欲を高めるための導入資料や探究の中心となる資料が写真等で大きく掲載されている。 ○ICT 機器を活用して利用できる「D マークコンテンツ」や二次元コードを付し、インターネットを使った学習ができるように工夫されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文の学習内容を詳しく説明したり、関連する内容を取り上げたりしている「歴史にアクセス」が設けられている。 ○小集団の協働的な活動のコーナーとして「みんなでチャレンジ」が設けられ、対話的な授業が実践できるよう工夫されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの中で写真、グラフや表、しくみ図、地図などがバランス良く掲載され、カラーユニバーサルデザインにも考慮し、学びやすいレイアウトに工夫されている。 ○「分野関連マーク」や「教科関連マーク」が付けられ、他分野や他教科との関連がわかりやすいレイアウトになっている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○敬体で平易な文章で書かれている。ふりがなは本文だけでなく、資料にもつけられ、他の箇所でも読み方を確認する必要がないようになっている。 ○見開きで資料に通し番号がつけられ、対応する本文の上にも番号がつけられ、本文と資料との関係が読み取りやすいよう工夫されている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○課題をつかむ（導入）—課題を追究する（展開）—課題を解決する（まとめ）という単元を構造化し、課題解決的な学習を実現している構成になっている。 ○「歴史的な見方・考え方」を働かせられる場面が示されていたり、まとめの仕方が例示されていたりして、学習が深められるようになっている。 ○小学校を振り返り、単元を貫く探究課題をつかむ導入の活動時間が配当授業時数に設定されており、課題解決的な学習を実現しやすくしている。

社会科(歴史的分野)調査資料 作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">17</p> <p style="text-align: center;">『中学社会歴史 未来をひらく』</p> <p style="text-align: right;">[教出]</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1時間の最後に学習したことを整理しながらまとめる「確認」のコーナーが設けられ、学習事項の確実な定着が図られるよう構成されている。 ○歴史学習に必要な技能を習得する「歴史の技」のコーナーが8ヵ所設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1時間の最後に「確認」のコーナーを受けて学習したことを基に表現する「表現」のコーナーが設けられ、学習事項の定着と活用が図られるよう構成されている。 ○地図・グラフ・絵・図解などの資料を読み取って、考察する学習活動を示す「読み解こう」のコーナーが教科書中17ヵ所に設けられている。 ○重要な資料の読み取り方や、年表などのまとめ方が第1章中の「歴史にアプローチ」に整理されており、生徒が振り返って学習を進められるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の導入「学習を始めよう」では、資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読み取りながら、章の学習に見通しをもって進められるように工夫されている。 ○巻末「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」では、これからの社会を築いていくため、自分たちには何ができるかを考察・構想し、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるように工夫されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県に関する教材として、稲荷山古墳出土の鉄剣、渋沢栄一、秩父事件を取り上げている。 ○歴史学習の最後にSDGsの視点を位置づけ、公民的分野の学習へと滑らかに接続していくように工夫されている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭・巻末ページなど、生徒の興味・関心を喚起する写真資料が豊富に盛り込まれ、学ぶ楽しさや意欲が高まるように工夫されている。 ○教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることができる「学びリンク」が設けられている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料を「読み解こう」のコーナーでは、疑問点や解説が掲載されている。 ○教科書冒頭の「歴史にアプローチ」では、中学校での歴史学習の進め方や「見方・考え方」の働きかけ方を確認できるよう構成され、学習活動に役立つよう工夫されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き1時間の中に、本文、資料、学習活動がバランス良く位置づけられている。 ○タイトル、学習課題、時代スケールが1つになっており、1時間の学習を見通しをもつことができる。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などにはUDフォントが使用されている。 ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は太字で表記されている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体を通して、現代社会に見られるさまざまな課題やそれにつながる歴史を取り上げ、自分と社会・歴史とのつながりについて、考えを深められるように配慮されている。 ○章の学習を見通す導入ページ「学習を始めよう」や章の学習を振り返る「学習のまとめと表現」など内容のまとまりを意識させることで、主体的な学びが実現しやすい構成に工夫されている。

社会科(歴史的分野)調査資料 作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>『社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き』</p> <p>46</p> <p>帝国</p>
<p>内容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入、学習課題、本文で構成されている。また学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」で構成されている。 ○歴史的な見方・考え方を働かせる上で、必要となる基礎的な技能が習得できる「技能をみがく」コーナーが設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きのまとめ「説明しよう」では、学習内容を振り返り、習得した知識を活用して自分の言葉でまとめ、表現できるように工夫されている。 ○章や節のはじめに設けられた「問い」は、時代の特色を論理的に説明する際の手がかりとなるように工夫されている。 ○「章の学習を振り返ろう」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを整理し、話し合い、説明することで学びを深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「タイムトラベル」では単元のはじめで時代の特色を見通し、本文と関連付けたり、眺め直したりすることで、時代の振り返りができるように工夫している。 ○単元を貫く「章の問い」、各見開きの「学習課題」、節末や章末の振り返りなど、問いが構造化され、単元のまとまりの中で「深い学び」が実現できる構成になっている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県に関する教材として、稲荷山古墳出土の鉄剣を取り上げている。 ○「歴史を探ろう」の製糸業に関するページにおいて、渋沢栄一や高崎線、秩父鉄道が取り上げられている。
<p>資料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○二次元コードを読み込むことで、「タイムトラベル」コンテンツにアクセスしたり、学習の理解を助ける動画等を閲覧したりできるように工夫されている。 ○見開きの上部左側に学習の中心となる資料と、右側に本文と連動した資料が、写真等で大きく掲載されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料について登場キャラクターが、学習の手がかりとなるような問いかけをしている。 ○学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号、「タイムトラベル」への参照記号などリンク機能が設けられ、資料活用を促す工夫がされている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの右端に「年表インデックス」が掲載され、巻頭の日本の歴史年表・巻末の世界史年表と照らし合わせて確認するように工夫されている。 ○ページ下段には「小学校・地理・公民との関連」が設けられ、関連用語が示されている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○1単位時間の見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見通しをもつための学習課題と学習内容を確認・説明するための課題が2つ示されている。 ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○時代の冒頭に、時代の様子が生き生きと描かれたイラスト「タイムトラベル」は本書の大きな特色である。興味・関心を高めるだけでなく、歴史的な見方・考え方を働かせられる視点を示すなど、使い方が多岐にわたるよう工夫されている。 ○教科書全体を通して、さまざまな立場や選択を踏まえて考察する活動が設けられたり、歴史上の人々が連携・協働して課題の解決に取り組む姿が紹介されたりして、多面的・多角的に歴史をとらえられるように配慮されている。

社会科(歴史的分野)調査資料 作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">81</p> <p style="text-align: center;">『中学歴史 日本と世界』</p> <p style="text-align: right;">山川</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○見開きを1単位時間とし、導入の発問、本文、「ステップアップ」による振り返りで構成され、世界史も含めた歴史全体の流れをつかめるようにしている。</p> <p>○第1章「歴史との対話」では、歴史を学ぶための基礎的な知識と、歴史の調べ方を示し、歴史学習に必要な技能が習得できるように工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○見開きのまとめ「ステップアップ」では、授業で学んだことを整理し、その後の歴史や現代の自分たちにどう影響したか、考えられるように工夫されている。</p> <p>○「歴史を考えよう」では、美術作品や史料・地図、憲法や選挙等が取り上げられ、話し合いや考察を通して思考力を高めるような工夫がされている。</p> <p>○章末「まとめ」では、時代全体を俯瞰して考えるための問いかけがあり、歴史的な見方・考え方を働かせて、考えを深められるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○「身近な地域を調べよう」では、調査の順序、注意事項等を示し、生徒が主体的に取り組めるように工夫されている。</p> <p>○生徒にとって意味のわかりにくい用語に用語解説を付している。同じページに示すことで、理解しやすいように工夫されている。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○埼玉県に関する教材として、稲荷山古墳出土の鉄剣、渋沢栄一を取り上げている。</p> <p>○近代以降が高校の新科目「歴史総合」につながる部分であること意識して、近代以前と近代以降で基調とする色彩をわけている。</p>
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○二次元コードを付し、博物館・資料館のホームページサイトや動画を見る等、課題を追究した学習ができるように工夫されている。</p> <p>○見開きの上部に学習の中心となる資料と本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料に発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。</p> <p>○高校の社会科で扱う史料は中学生にもわかるように口語訳で表記されている。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○各章のはじめに、章で学ぶ時代の日本と世界の出来事の帯年表が掲載されている。また、章に関係する写真が上下に分けて時代順に示されている。</p> <p>○各単元の基調とする色彩を日本史と世界史でわけ、今学んでいることが日本のことか世界のことか、すぐわかるような工夫がされている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○地図・グラフなどは、UDに配慮されている。</p> <p>○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見直しをもつための学習課題と課題追究ための「ステップアップ」の発問が示されている。</p> <p>○本文は常体で記され、参照ページを朱書きで示している。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号があり、参照できるようになっている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○歴史を学ぶ力を養うために、教科書全体が「流れをつかむ」「歴史を考える」「世界史を知る」という3つのポイントで構成されている。また、高校での学習につながる教科書として本文の構成や資料等が工夫されている。</p> <p>○文字サイズは他社より小さく、行数も多い。世界の歴史を中心に構成されたページ数も60ページと多い。</p>

社会科(歴史的分野)調査資料 作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">116</p> <p style="text-align: center;">『中学社会 歴史的分野』</p> <p style="text-align: right;">日文</p>
<p>内容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「確認」で構成され、「確認」コーナーでは習得した知識・技能を用いて、自分の言葉でまとめられるようにしている。 ○歴史学習に必要な技能を習得する「スキルUP」コーナーが9カ所設けられ、社会的事象について調べ、まとめる技能が身に付けられるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章末の「とらえよう!○○の特色」では、習得した知識を関連させて、時代の特色をとらえることをねらいとした「アクティビティ」という学習活動が設けられている。 ○学習課題の理解を深めるため、「深めよう」では、歴史的な見方・考え方を働かせる問いが設けられている。 ○第1編「私たちと歴史」で歴史的な見方・考え方の働かせ方を学習し、全ての見開きには、学習課題の解決に向けた手がかりとして「見方・考え方」の例が示されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「『歴史との対話』を未来に活かす」では、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとする態度を養えるよう、テーマ別さくいんと、それを活用して取り組む課題例が示されている。 ○各章の「チャレンジ歴史」では、複数の資料をもとに、歴史について自分で考えたり、対話したりして歴史を学ぶ面白さを体験できる工夫がされている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県に関する教材として、稲荷山古墳出土の鉄剣、洪沢栄一を取り上げている。 ○現代の諸課題の歴史を調べる学習に活用できる「テーマ別さくいん」が設けられている。
<p>資料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が楽しく歴史を学びながら資料活用能力の向上も図れるよう、実物大資料や時代像を具体的にイメージできる資料が多数掲載されている。 ○「デジタルマーク」が表示されている内容について、教科書内容の理解を助ける動画やワークシートなどの教科書QRコンテンツにアクセスすることができる。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。「資料活用」のコーナーでは、資料を読み取る発問が示されている。 ○歴史の学習を豊かなものにするために「先人に学ぶ」、「女性史コラム」、「地域に学ぶ」など特設ページやコラムが設けられている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きページの右端には、時代・世紀のスケールを設け、学習している時代や世紀を前後の時代も含めて常に確認できるように工夫している。 ○側注欄に設けた「基本用語」では、歴史を理解する際に重要な用語を解説しており、生徒がすぐに確認できるように工夫されている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。 ○見開きの下部には小学校で学習した人物や地理・公民との連携が示されている。
<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本書の特色は、学習課題の解決に向けて手がかりとなる主な「見方・考え方」の例を全ての見開きページに示している点にある。 ○カラーユニバーサルデザインに配慮され、落ち着いた色調で全体的に統一されている。また、資料も大きく、大判ページを入れるなど、生徒の意欲を喚起する工夫が随所に見られる。

社会科(歴史的分野)調査資料 作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">227</p> <p style="text-align: center;">『[最新]新しい日本の歴史』</p> <p style="text-align: right;">育鵬社</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、学習のまとめで構成され、つかむ、調べる、まとめる、表現するという配列になっている。 ○「地域の歴史を調べてみよう」では、身近な地域の歴史の情報を収集し、レポートにまとめ、発表するという方法が示されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの「学習のまとめ」では、学習内容をレポートや論述形式でまとめたり、解釈したりする問いが設けられ、多様な言語活動に取り組める工夫がされている。 ○「『私の歴史博物館』をデザインしよう」では、展示方法を考えさせることで、資料から情報を効果的に調べ、まとめられるように工夫されている。 ○章末「学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分の言葉や図で表現する学習活動が設けられている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○序章「歴史探検!」では、歴史を学ぶ意欲が高まるように、小学校での学習を振り返ったり、特定の人物について調べ、まとめ、発表したりする活動が設けられている。 ○「歴史のターニングポイント」では、生徒が「もし、その時、私が当事者だったら」という意識で、歴史と向き合えるように工夫されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県に関する教材として、稲荷山古墳出土の鉄剣、渋沢栄一を取り上げている。 ○「なでしこ日本史」では各時代を代表する15人の女性たちを紹介している。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉には、各時代を象徴する船が取り上げられ、「海洋国家・日本の歩み」を考える工夫がされている。 ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や、本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。導入資料には発問を付け、資料を読み取る視点が示されている。 ○各章の「学習のまとめ」では、代表的なできごとや人々の暮らし、文化の様子などを資料の読み取りを通して整理させ、時代像について多面的・多角的にまとめることができる。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の章扉に、「歴史絵巻」「歴史モノサシ」が掲載され、歴史の大きな流れとその章の学習範囲が確認できるように工夫されている。 ○見開きを1単位時間とし、見開きで学習過程が「つかむ」「調べる」「まとめる・表現する」となるよう資料をバランスよく配置している。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○図版は、色覚特性を踏まえた判別しやすい色が使われている。 ○見開きの見出し・資料名・重要語句は、太字で表記されている。見開きに見通しをもつための学習課題と学習のまとめの二つの課題が示されている。 ○本文は敬体で記され、参照ページが設けられている。資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連箇所にも同じ番号が付けられている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史学習の導入、各章の導入、毎時間のまとめ、「歴史のターニングポイント」など、歴史的な事象を自分事としてとらえさせることで、主体的に歴史の学習に取り組めるような構成となっている。 ○学習内容の理解をより深める「歴史ズームイン」、多面的・多角的に考える視点を提示する「歴史ビュー」、歴史上の人物の活躍を紹介する「人物クローズアップ」等のコラムが設けられ、学習に具体性や発展性を持たせるように配慮されている。

<p>書名</p> <p>『新しい社会 公民』</p> <p>項目</p>	<p>2</p> <p>東書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を確実に習得できるように、学習上重要な語句を太字で明示し、学習事項の確認のために、巻末にその索引が設けられている。また、単元終末の「学習をふり返ろう」の場面で、語句を生かすことを促し学習内容の定着を図るようにしている。 ○「読み取る」という目印のコーナーでは、図表の読み取り方や写真資料の比較をさせる活動があり、社会科における技能の習得につながるような工夫がある。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ツールミン図式や座標軸、Yチャート、ダイヤモンドランキング、フィッシュボーン図、くらげチャートなど、様々な思考ツールを使って思考の整理を促すようにしている。 ○各章の「まとめの活動」では、単元の中で身に付けた知識や見方・考え方を用いて、課題を解決することで、思考力、判断力、表現力を育成するようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界に広がる日本の伝統文化やポップカルチャーなどを紹介し、国際化を実感できるようにするとともに、日本文化に対する誇りと愛情をもてるようにしている。「SDGs」を用いて国際社会の中で我が国が果たす役割を考えることができるようにしている。 ○各章の「まとめの活動」で「自分なら社会(世界)とどう関わるか」というまとめかたをしている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい話題として、「働き方改革」「性の多様性」「消費者主権」「SDGs」などを適宜紹介し、単元内の学習内容と有機的に結び付けている。 ○政治の単元では、市長を選ぶという「導入の活動」から、最後は身近な地域の課題を探して生徒にできる行政への働きかけという構成になっている。「18歳へのステップ選挙の流れ」では、主権者教育に必要な主体的に選択・判断する活動を取り入れている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「導入の活動」では、身近に見られる場面から探究課題を見出す構成にしており、その後の学習展開に生徒を引き込む工夫がなされている。「まとめの活動」では、単元の探究課題を再提示し、課題を解決させるような工夫がなされている ○1時間ごと、小单元ごとの「振り返り」を随所に設け、主体的な学びを促している。 ○QRコードが配置してあり、生徒が自宅等で学習内容に関する動画や資料を見られるようになっている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見方・考え方」を働かせながら問題解決的な学習を進めることで、深い学びが実現できるようにしている。 ○「分野関連マーク」によって、地理的分野や歴史的分野で学習した内容の確認や関連性を絡めながら学習できるようにしている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の「学習課題」とそのまとめとして、比較的容易な「チェック」と、より深い理解を確認する「トライ」の構造が、生徒の理解度に応じて使い分けできる工夫が見られる。 ○「小学校マーク」は小学校で学習した内容を示しており、既習事項の確認をしながら授業が進められる。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめ(教科書では章)ごとに「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」という学習段階を示し、問題解決的な学習を促す構成になっている。 ○左上の大判の写真や資料から本時の学習課題がつかめるような構成になっている。 ○色覚障害のある人が見やすい配色やフォントになっていたり、紙面が見やすいようにルビの色を薄くしたりと、紙面の各所にユニバーサルデザインが取り入れられている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめ(教科書では章)ごとに「課題をつかむ」「課題を追究する」「課題を解決する」という学習段階を進めていくことで、問題解決的な学習を促す構成になっている。 また、各時間における「社会的な見方・考え方」がイラストで示されていたり、まとめの方法が難易度別に2段階になっていたり、生徒が学習に取り組みやすい作りである。 ○長年のノウハウを生かしたデジタル教科書は、教師用も生徒用も多くのコンテンツを持ち操作性に優れている。生徒にとって視覚的に分かりやすい授業の展開が期待できる。

社会科(公民的分野)調査資料 作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>『中学社会 公民 ともに生きる』</p> <p>17</p> <p>教出</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○語句を側注「キーワード」で取り上げ、巻末にその索引が設けられている。また、「まとめる」で語句を振り返るように促すことで学習内容の定着を図れるようにしている。 ○「読み解こう」や「公民の技」という目印のコーナーでは、図表の読み取り方の比較をさせる活動があり、社会科における技能の習得につながるような工夫がある。 ○単元や章の終末に、平易な確認問題があり、知識の確認につながる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の終末にはまとめとして、現代社会の見方・考え方を使った様々な話し合い活動を通じて、思考したことを整理する構成になっている。 ○「言葉で伝え合おう」のコーナーでは、様々な議題が提示され、話し合い活動を通じて生徒が思考したことを表現できるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほぼ全編にわたり、SDGs との関連が図られている。公民的分野の学習内容が、世界共通で解決すべき課題につながることを実感できる。 ○いくつかの章で生徒が住む地域について考えるようになっている。生徒が住む地域に対する愛着を深め、将来の主権者の目線で考えられるようにしている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「防災」に関しては、地理的分野と歴史的分野で学んだことを、公民的分野に有機的に結びつける構成になっている。 ○冒頭の「公民にアプローチ」では、情報収集と活用に関して、各メディアの長所と短所を端的に説明し、調べ学習の際の参考になる。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒のキャラクターが学習内容に関する問題提起をすることで、本時の学習課題に対する学習意欲の喚起がなされている。 ○QR コードが各章の導入部分に配置してある。読み取ることで、その章に関連する公的機関のサイトへのリンクが表示される。リンク先の資料を活用するには、それなりの情報活用能力が必要とされる。 ○毎時間の導入では、資料解説の「LOOK!」によって、生徒の問題意識や本時への関心を引きつけられるような工夫がある。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見方・考え方」を働かせながら本時のまとめを行う「表現」の活動によって、学習内容の深い理解につなげる工夫がある。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の「学習課題」とそのまとめとして、自分でまとめを行う「確認」と、学習内容について対話を促す「表現」の構造が、授業のまとめ方の幅を広げる工夫になっている。 ○本文中の語句と、教科書の周縁部に配置された資料とのつながりが分かりやすいよう、語句の上に資料番号が併記されている。 ○本時の学習内容が小学校での既習内容とどう関連するか、見開き左下に表示されているため、生徒にとっては小学校の内容を思い出しやすい。右下にはSDGsの観点を示している。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○資料集が必要ないくらい、豊富な写真や統計資料がある。また、それらの資料を使った問いかけの発問が設定されていて、授業中の発問に活用しやすいようになっている。 ○色覚障害のある人にも見やすい配色の、カラーユニバーサルデザインになっている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○章や単元の導入で、生徒に現代社会の疑問を抱かせ、その後の展開に対する関心を高め、終末の「学習のまとめと表現」でプレゼンテーションなどの多様な表現活動につなげる構成になっている。 ○全体としてSDGsの視点を貫くことで、公民の学習に「持続可能性」という一貫性がある。 ○デジタル教科書との併用で、視覚的に分かりやすい授業の展開が期待できる。

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: right;">46</p> <p style="text-align: center;">『社会科 中学生の公民』</p> <p style="text-align: right;">帝国</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を確実に習得できるように学習上重要な語句を太字で明示し、重要語句と関係のある資料とを番号で結び付けているので、語句の理解がしやすい。また単元終末の「章の学習を振り返ろう」の場面で、ワーク形式で語句や概念の確認ができるようになっている。 ○章ごとにディスカッションやディベートなどのやりかたを「技能をみがく」として設定している。話合いの技能の習得だけでなく、表現力の育成にもつながる。 ○一時間ごとのまとめ方に難易度の差をつけた「確認しよう」と「説明しよう」があり、生徒の習熟状況によって使い分けたり、どちらも取り組ませて復習を徹底させたりするなどの使い方ができるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章のまとめに「見方・考え方を働かせて考えよう」というコーナーがあり、その章で身に付けた現代社会の見方・考え方を身につけたまとめや意見交換を促す工夫がある。 ○章や節を通じて学んだことを、章の終末で適切にかつコンパクトにまとめるワークシートがあり、書き込みながら思考力や判断力、表現力を育成できる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の導入では、一貫して身近な街中の光景から課題を探る構造になっており、章末の「章の学習を振り返ろう」では「自分なら社会や世界とどう関わるか」というまとめかたをしている。公民で学んだことを、身近な実社会の中で「自分事」にして意思表明や考えを構想するつくりとなっており、主権者教育にも通じる工夫がある。 ○経済分野では実社会に出るシミュレーションのような構成になっており、「一人暮らしをするには」「起業するには」といった題材で、生徒の関心を高められるよう工夫している。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい話題として、「クラウドファンディング」「ビッグデータの活用」「規制緩和と民泊」「自動運転車」「ドローンの活用」「SDGs」などを適宜紹介し、単元内の学習内容と有機的に結び付けている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入では身近な街中の光景から課題を探る構造になっており、そのイラストもわかりやすく作られているので、生徒が課題を発見し、その後の学習意欲につながる工夫がある。 ○QRコードが配置してあり、生徒が自宅等で学習内容に関する動画や資料を見られるようになっている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章の構造が、「問い」に始まり、習得した知識を活用しながら課題解決に向けて話合ったり、根拠を探したりしながら、知識を再構成することで、深い学びにつなげようとしている。 ○「アクティブ公民」のコーナーで、章で学んだことを生かした話合いの題材を多く提案している。身近で起きていることを実感できるようになっている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページによってはかなり大きく、ワイドで迫力ある写真を導入に用いており、一目で生徒の関心を引くことができるような工夫がある。 ○資料の中に「小学校との関連」を表記し、既習事項と結びつけて考えることができる。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文は必要なことを比較的コンパクトにまとめた表記になっており、文量は多くないので読みやすい。その分、写真は大きく、資料は多い構成になっている。 ○色覚障害のある人に見やすい配色の、カラーユニバーサルデザインや見やすく読みやすいユニバーサルデザインフォントを採用したつくりになっている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○章の構成が、生徒にとって身近な街中から課題を見出し、学んだことをもとに構想して課題解決していく流れとなっている。生徒一人一人が近い将来の主権者として自覚を持ちつつ学べるようになっており、「社会や世界とどう関わるか」考え続ける公民の授業をしやすい工夫されている。 ○デジタル教科書の併用で、生徒にとって視覚的に分かりやすい授業が展開しやすい。

社会科(公民的分野)調査資料

作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">116</p> <p style="text-align: center;">『 中学社会 公民的分野 』</p> <p style="text-align: right;">[日文]</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題の理解を深めるために「アクティビティ」という見出しがある。より身近な例で学習課題を提示しているなど、生徒にとって考えやすい工夫がある。 ○「資料活用」の見出しがある部分には、資料を読み取らせるための発問が併記されている。生徒にとって資料を読み取る手助けとなり、教師にとってもそのまま授業中の発問として利用できる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章のまとめにあたる「学習の整理と活用」では、フリーカード法やくらげチャート、フィッシュボーン図、ダイヤモンドランキングなどの様々な思考ツールを活用している。このツールを活用することで、アイデアを出し合ったり、自分の考えに理由づけさせたり、多面的に事象を見たりする学習につながり、思考力や判断力、表現力を高められるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1編では、世界に広がる日本の伝統文化やポップカルチャーなどを紹介し、国際化を実感できるようにするとともに、日本文化に対する誇りと愛情をもてるようにしている。 ○単元の終末に、発展的な内容として「チャレンジ公民」のコーナーがある。政策提言など、主権者教育につながる内容で、どう社会や世界と関わるかについて考えられる。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい話題として、「フェアトレード」「ビッグデータの活用」「規制緩和と民泊」「企業内保育所」などを適宜紹介し、単元内の学習内容と有機的に結び付けている。 ○「チャレンジ公民」のコーナーでは、デジタル資料のワークシートとの連携がなされている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○冒頭でSDGsを活用した問題提起をして、公民的分野への学習意欲を高めようとしている。 ○「アクティビティ」のコーナーでは、どのように学ぶか、という発想のもと、身近な事例や話し合い活動を促すもの、多面的・多角的な視点で考えさせるものなどがあり、生徒にとって考えたいくなるよう工夫されている。 ○中学生という等身大のキャラクターたちの会話で、学習課題の問題提起をしたり、学習内容の整理をしたりできるようにしている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ほとんどの見開きで、深い学びに至るための「見方・考え方」を働かせながら資料を読み解くような働きかけをし、「学習課題」に対応した「確認」によってまとめる構成になっている。 ○「チャレンジ公民」のコーナーでは、考察や構想を練ることで、学習内容を深い学びに導く工夫がある。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○統計資料の色づかいに統一性がある。生徒にとっては「赤が一番割合が多いもの」というように、色づかいに一貫性があり、資料が見やすいよう工夫されている。 ○本時の学習内容が小学校での既習内容とどう関連するか、歴史、地理的分野との関連も含めて見開きの左下に表示されている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○イラストや漫画を使った説明が多く、文章から読み取るのが苦手な生徒にも、社会的事象に親しみやすい配慮がある。 ○全体として落ち着いた色合いで構成されている。 ○色覚障害のある人に見やすい配色の、カラーユニバーサルデザインになっている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として、色づかいの配慮やイラストや漫画を使った構成など、見栄えを重視した工夫が多い。イラストや漫画によって、授業や家庭での学習にスムーズに入っていくきっかけになることが期待できる。 ○デジタル教科書の使用も設定されているため、教科書とデジタル教科書との併用で、生徒にとって視覚的に分かりやすい授業の展開が期待できる。

社会科(公民的分野)調査資料 作成の観点

書名	225
項目	『 中学社会 新しい公民教科書 』 自由社
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの最後に「ここがポイント」というコーナーがあり、本文中の内容を端的に示すことで、本文の概要をつかみやすくしている。 ○本文の文量が多く、詳細な内容が記載されているページがある。特に、天皇に関すること、安全保障に関すること、国際社会との関係性についてのことなどは、多くのページを割り、理解を促そうとしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の終末にある「アクティブに深めよう」では、章の中で扱った特定のテーマについて、登場キャラクターによる多面的、多角的な意見を参考にしながら、生徒は自分の考えを表現していく構造になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の中で取り上げた事例を具体的に扱っている「もっと知りたい」というコーナーの情報を活用して、発展的な内容を学習することにつながるよう工夫している。 ○冒頭にある「日本人とは何か?」というトピックや、第1章の「家族愛・愛郷心から愛国心へ」などで、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、そして我が国の将来を担う国民としての自覚を養えるようにしている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新聞社による記事の書き方の違いを学ぶ場として、社説を4社分比較できるようになっている。メディアリテラシーについて学べる工夫がある。 ○公民的分野の最終単元で、「持続可能な社会」についてレポートを卒業論文の形式で書く際の手順や考え方、論文の題材例などが記載されている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○経済分野の章末にある「アクティブに深めよう」では、店の出店計画の企画書づくりという学習の形式を使って、将来、自分の店を持つという自分事として考えさせるよう工夫している。 ○登場キャラクターが多く(12名)、それぞれが生徒目線、あるいは教師目線で問題提起や、考え方のヒントを伝えている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の章末には「学習のまとめと発展」のコーナーがあり、発展的な内容も含めて、重要語句の確認や、調べ学習などを促すことで、学習内容の定着を図れるよう工夫している。 ○「やってみよう」のコーナーでは、本文中の事象について、生徒が身近な例を思い出ししながら記述して、学習内容を整理できるようになっている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文の周囲に、本文中の用語の解説を多く配置している。解説文は詳細に書かれており、その分、写真資料は全体的に少ないレイアウトである。 ○一時間ごとの授業で取り扱う見開きには、一貫して通し番号がついている。教師にも生徒にも、公民的分野全体を通して本時がどのあたりの学習なのか、把握しやすい。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○全体として、文量が多い。読みこむことで詳細な理解ができる一方、難解な語句については、本文脇に説明書きが付されている。そのため、紙面の大部分が文章や文字資料になっている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の文量が他社と比較して多いので、読みごたえがある。また、特定の話題(天皇に関すること、安全保障に関すること、国際社会との関係性についてのことなど)に関しては、かなり深い内容を載せている。難しい語句が出てくることもあるが、補足説明がついている。文量が多くなっているため、写真や統計資料などは精選されており、文章との比率で見ると多くはない。 ○「私たちと国際社会」の章では多くのページを割り当て、生徒と世界との関わりを強く意識させようとしている。

社会科(公民的分野)調査資料 作成の観点

書名	227
項目	『新しいみんなの公民』 育鵬社
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章の終末に、平易な確認問題である「学習のまとめ」があり、重要語句を中心に知識の確認ができる。 ○日本国憲法については、巻末において用語の解説を加えることで、生徒が条文を読み取りやすくしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章の終末ではピラミッドランキングや KJ 法など、多様な手段で生徒が考えたことをまとめられるようにしている。 ○思考力、判断力、表現力を育成するための話し合い活動を、全ての時間で設定し、発問を鉛筆マークで表示しており、教師も発問を活用しやすい工夫がある。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章のはじめに、「どうして政治を学ぶの?」「どうして経済を学ぶの?」など、その章を「学習する理由が分かりやすく記述してある。「なぜ学ぶ必要があるのか」という疑問を解消し、視点(例えば経済分野なら「コンビニの新たなビジネスチャンスをもたらすサービスを考える」など)を明確にして学んでいけるようになっている。 ○最終章では、総理大臣となって「国づくり計画書」を作成する中で、学んできたことの振り返りや学びの深化を図る工夫がある。また、主権者教育につながる内容でもあり、どう社会や世界と関わるかについて考えることができる。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新しい話題として、「SDGs」「AI やロボットにとって代わられる職業と残る職業」などを適宜紹介し、これらと単元内の学習内容とを有機的に結び付けている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの最初の写真とキャラクターの問題提起によって授業が始まる構成となっており、生徒の「なぜだろう」という興味関心につなげられるようになっている。 ○一単位時間ごとに、学習のねらいに沿った「学習のまとめ」があり、そのまとめをしていくことで一時間の学習の定着を図れるよう工夫している。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○社会的事象を多面的・多角的に考え、今日的課題について話し合ったり、よりよい未来について構想したりする「学習を深めよう」のコーナーを設けている。 ○最終章の「よりよい社会をめざして」において、生徒が具体的に考えられそうな探究のテーマを多く紹介している。このような例示により、テーマ選びでつまづく生徒にとっての学習の助けとなるよう工夫されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真資料や統計資料に関して、着目してほしい部分については、キャラクターが発問をする構成になっている。 ○法律の制定や情報公開、裁判などの流れをイラストで例示することで、生徒が理解しやすい工夫となっている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○色覚障害のある人に見やすい配色の、カラーユニバーサルデザインになっている。 ○一時間単位の学習内容となる見開きの本文の分量はやや多いが、本文の周囲に配された資料の大きさを見やすい範囲内で揃え、色づかいを抑えめにするすることで、見開き全体としては見やすくなっている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○章の導入で「なぜ学ぶのか」を明確に示し、一時間ごとの学習の目標やまとめを確実にを行い、章の終末では重要語句の確認と探究的な学習を配置する構成になっている。このことが、生徒にとって使いやすくわかりやすいようになっている。 ○デジタル教科書の併用で、生徒にとって視覚的に分かりやすい授業の展開ができるよう工夫されている。

社会科（地図）調査資料 作成の観点

書名	2
項目	『新しい社会 地図』 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の各州・日本の各地方には、地域の概観に役立つ、自然・産業・人口などの主題図を「基本資料」の形で設けることにより、基礎的・基本的知識の習得を促すように工夫されている。 ○地域の特徴的な事象を「注目したい記号」の形で示すことで、地図の読み取りなどの地理的技能的習得を図る工夫がなされている。 ○人口ピラミッドの作成や地形図の読み取りなど、地理的技能的定着を期待できる資料が掲載されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の要点や「社会的な見方・考え方」を示したキャラクターのふきだしを設けることにより、思考をより深められるように工夫されている。 ○地理的分野の諸地域学習で、究課題に沿って学習する際、活用できるテーマ資料が多数掲載されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の特集ページでSDGsを中心に、8ページにわたって豊富な資料を掲載し、現代的な諸課題を的確に捉え、それらの解決に向けて主体的に取り組む態度の育成を図っている。 <p><特記すべき教材や教科書の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界や日本の地域ごとに、教科書にはない補充資料を掲載したり、関連する地図や資料を閲覧できるように、デジタルコンテンツに接続するための二次元コードを掲載したりするなど、学習を主体的に進められるように工夫されている。 ○歴史の教科書に密接に関連した補充資料により、歴史的分野での探究学習に地図帳を活用できるよう工夫されている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を用いて地図や資料を閲覧できるデジタルコンテンツに接続するための二次元コードが掲載されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地理の教科書との連携を強化し、教科書の学習内容に関連した補充資料やより詳細な資料が掲載され、学習をさらに深める工夫がなされている。 ○巻末に「資料さくいん」を設け、資料の検索性を高めることで、資料を活用した学習が主体的に進められるように工夫されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「世界、日本、統計、さくいん」を、インデックスで大きく色分けし、さらに世界は州ごと、日本は地方ごとに、細かく色分けされている。 ○「ジャンプ」のマークにより、関連する他の資料のページと資料番号が明示されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○基本図は地形を捉えやすいように、等高段彩表現に陰影表現を合わせた立体感のある地図表現になっており、文字は読みやすいユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ○基本図でとりあげた地域を位置図で示している。 ○折り込みページにより、地図記号を確認しやすくしたり、巻頭に地図の見方や資料の活用方法を示したりしており、地図が使いやすくなるように工夫されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の各州を3枚の地図（p.29-30、p.61-62、p.67-68）に同縮尺で掲載し、地球儀の代替として使用できるように工夫されている。 ○防災・安全に関する資料やハザードマップなどを豊富に掲載し、主体的な防災・安全への意識や態度を養えるようになってきている。 ○歴史的分野や公民的分野で活用できる特設ページが設けられており、歴史や公民の授業での活用度を高める工夫がなされている。 ○巻頭にSDGsの特集ページを設置したことで、様々な単元の学習を通して、学習内容をSDGsと関連付けて考察するなど、現代的課題についての理解を深めるとともに、社会参画の意識を育成する工夫が見られる。

社会科（地図）調査資料 作成の観点

書名	4 6
項目	『 中学校社会科地図 』 帝国
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の「地図帳の使い方」で地図帳の基本的な見方や活用方法がわかりやすく示されている。 ○要所に配置された問い「地図活用」から、地図の読み取りなどの地理的技能を身につけられるようになっている。 ○作業を通して地形図の読み取り方が身に付けられるよう、実際の地形図を取り上げたページが設けられている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料図は、比較を通して地域の特色が考察できるように、自然や人口などの主要素について縮尺が統一されている。 ○巻末の統計資料は、項目ごとに上位国や県は赤字で示されるなど、数値的に各国・各地域の特色や差異を捉えやすいように配慮されている。また、県別統計資料には、地方別合計欄があり、地方どうしの比較が容易に説明できるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○問い「地図活用」の設置により、地図活用の技能だけでなく、「社会的な見方・考え方」の育成を図ろうとしている。 ○巻頭と巻末の資料図では、各ページに学習課題を設け、そのページで扱うテーマを追究する際の着眼点を示している。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日本の自然災害・防災」の特設ページが設けられ、日本で起こりうる災害と、それらへの対策が理解できるように工夫されている。また、ハザードマップと地形図の比較から、防災における地図の有用性を理解できるように工夫されている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○二次元コードが38カ所に設置されており、様々なデジタルコンテンツを活用できるようになっている。特に、地域の特色にふれた動画が多数見られることで、自主学習に活用できるように工夫されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の各州には、イラストを配した鳥瞰図があり、地域の特色を視覚的に捉え、大観できるようになっている。 ○開いているページの地域が、世界や日本の中でどのあたりに位置するかが一目でわかるように、位置図が掲載されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○紙面の左上にタイトル、左右上にページ番号、右端にインデックスが配置されるようにレイアウトの統一がなされていて、生徒が探しやすいうように配慮している。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○世界・日本ともに地形が捉えやすいように、等高段彩表現に陰影表現を合わせた、より立体感のある色合いになっている。 ○世界地図には、世界の国々と日本の大きさや、緯度・経度による位置関係の比較ができるように、随所に同緯度・同経度・同縮尺の日本地図が掲載されている。 ○地図帳全体にわたり、可読性の高いユニバーサルデザインフォントが使用されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○大判化により、地図をより広範囲で示せるようになり、地域間のつながりを捉えやすくなっている。また、大判化しているが、軽量化を図っており、持ち運びの負担を減らすよう工夫されている。 ○問い「地図活用」により、地図の読み取りなどの地理的技能の定着を図るだけでなく、「社会的な見方・考え方」を働かせた課題解決的な学習につながるよう工夫されている。 ○世界の各地域や主な国々と、日本との結びつきを読み取ることができる資料が、地域ごとに必ず掲載されている。 ○日本の各地域における、災害への備えや起こりうる災害について読み取ることができる資料が掲載されている。

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">『 新し い 数 学 』</p> <p style="text-align: right;">2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○生徒が数学の学習にスムーズに取り組めるよう、第1学年の教科書には、巻頭に0章が用意され、数学の学習の仕方について、例題を示しながら説明している。また、各單元にはその時間の課題が示されており、それに対応したまとめもわかりやすく、表示されている。巻末には補充の問題があり、習熟度に応じて、個別学習や、家庭学習に利用できるようにになっている。さらに節末の「基本の問題」では身に着けるべき知識・技能が示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○これまでに学んだことをもとにして、数や図形についての新しい性質を見つけたり、身の回りの問題を解決したりする活動「調べてみよう」「考えてみよう」が「Q」マークで示され、自分の考えを説明し、伝え合う活動を重視している。單元内の「深い学び」では見方や考え方を生かして、問題の解決をする流れが示されている。さらに、大切にしたい見方・考え方にもつながる工夫がされている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○各問の中で「例」と似た問題が◆印で示されており、例での解き方を参考に組み合わせることができるため、自分自身で考えながら、問題を解くことができるよう工夫されている。また、「数学マイノート」では、見通しをもって学習し、学習したことをふり返ることができるよう、ノート書き方の工夫や、感想例を掲載している。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性> ○第2学年「箱ひげ図」の学習では、コンビニのデータを用いた教材となっており、実社会での体験につながる教材となっている。さらに、マークの付いたDマークコンテンツでは、インタビュー映像が閲覧でき、キャリア教育にもつながるよう工夫されている。</p>
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫> ○「章とびら」では、日常生活の場面を1コマのイラストで提示し、生徒の関心・意欲を引き出す工夫がなされている。また日常生活の問題解決や数学の新しい性質を発見する活動に生徒が主体的に取り組む「深い学び」のページ側注の過程に沿って、生徒が自ら考え、話し合いを通して学びを深める授業展開になるよう工夫されている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫> ○数学が実社会で活用されている例を紹介する特設ページ「学びをひろげよう」があり、数学と関わる仕事をしている人の思いや、その仕事に触れることで、数学の学びが将来につながることを実感できるよう工夫されている。</p> <p><レイアウトの工夫> ○その章の「課題」「Q」「例」「問」が少ない色で分けられていて、落ち着いた紙面での学習できるようになっている。また「作図」や「関数のグラフ」は教科書に書き込めるようにしたり、教科書の紙を折ったりして、生徒が理解しやすいよう工夫されている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○新しい用語や記号などは太字で書かれ、定義、公式などは字体を変え、太字にして、見やすく表記されている。また、キャラクターが数学的な見方や考え方を働かせるためのヒントとなることを吹き出しで示している。</p> <p>○「まちがい例」は誤りであることが明確にわかるようになっている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○生徒が学ぶ意欲をかきたてられるような動機付けを図るために、実社会や実体験をもとにした導入を用いて、数学と日常生活の結びつきを確認できる。また、問題解決の場面では、考えるプロセスを明示することで、生徒が学習するときの助けとなっている。全国学力・学習状況調査の活用型の問題や最近の入試に対応できる力がつくよう、章末問題を工夫し、思考力・表現力を伸ばすよう「記述式問題」を豊富に取り上げるなど、幅広い習熟度に対応できるようになっている。</p>

数学科調査資料 作成の観点

書名	4
項目	『 数学の世界 』 大日本
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「活動」→「例・例題」→「たしかめ」→「Q」→「プラス・ワン」と取り組み、基礎的・基本的な知識や技能の定着と生徒の個々の習熟度の差に応じた問題が用意されている。また、各節の「たしかめよう」、各章の「ふり返ろう」「力をのばそう」、巻末の「補充問題」「総合問題」と習熟度別にも対応できる十分な問題がある。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○巻頭の「数学の世界へようこそ」で自分の考えを持ち、仲間と考えを伝え合い、わかりやすく説明し、振り返る流れが示されている。数学的な見方・考え方を働かせるとよい場面や方法が示され生徒が考えやすい工夫がされている。また、ノートづくりの例には、学習内容のまとめ方の例だけでなく、振り返りの例も示され、学びの支援が充実している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○全章に「導入の活動」が設置され、数学の有用性に気づくことができるようにしている。「学びにプラス」でこれまでの学習をひろげたり、活用したりすることで、学びの関連性がわかるようになっている。また、「活用・探究」では、「日常生活をよりよく」や「数学で楽しむ」などで、身近な場面での活用や探求をすることができるようになっている。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○「データの活用」の領域では、統計的探究プロセス「PPDACサイクル」に沿って学習を進められるように、工夫されている。自ら調べたいことを見出して、計画を立て、適切なデータを集め分析し、結果をまとめるような課題を設定している。また、巻末には前年度の学習内容の振り返りや総合問題が用意され、学習の確認ができるようになっている。</p>
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○「数学の世界」では、身の回りにある数学に目を向け、「なぜ?」「知りたい!」という主体的な意欲を引き出し、次の学習に引き継がれる工夫がされている。「社会にリンク」や「MATHFUL」では仕事の中や生活の中に数学が活用されている場面を紹介し、学習意欲が高まるように工夫されているだけでなく、キャリア教育にもつながるようになっている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○「折込」や「切り取り」のページを用意したり、巻末にコンパクトにまとめ、学習内容をすぐに振り返ることができたり、理解を深める支援が随所にされている。また、URLやQRコードで、図形などの変化の様子を調べられる動画コンテンツなどにアクセスして、授業や家庭学習に活かすことができる。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○文字入りのマークを使用したり、例や例題にはタイトルをつけたりして、扱う学習内容がわかりやすいようにしている。本文は単語の途中での改行を避けたり、重要な事項は枠で囲み強調したりして読みやすい工夫がされている。また、表やグラフも直接書き込めるようになっており、学習しやすい工夫がされている。</p>
表記・表現	<p>○各章の導入では、写真やイラストなどを使い、新しい学習への期待感を高める工夫がされている。「気づき」を促す言葉を、キャラクターの吹き出しで囲み、強調して示している。また、領域ごとにメインカラーを設定し、新しい雰囲気を感じながら、意欲をもって学習に取り組める工夫がされている。</p>
総 括	<p>○既習事項を関連付け、身近な課題に取り組み、数学的な見方・考え方を働かせ、「わかった!」「できた!」という理解や発見、数学的な対話を通して、豊かな数学の授業になることを目指している。より豊かな学習内容になるように登場人物や資料にも異文化理解の視点を取り入れたり、他教科との関連を示したりしている。</p>

数学科調査資料 作成の観点

書名	1 1
項目	『 中学校 数学 』 学図
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「章のまとめの問題」では、基本、応用、活用の3つに分類されており、習熟度に応じた確認ができ、章末や巻末の課題ではそれぞれの段階に合わせて学力を伸ばすことができるようになっている。また、ノートの使い方を各学年の巻頭で紹介し、基礎・基本の定着を図ることのできるノートづくりを推進している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○巻頭の「教科書の使い方」で数学的な見方について掲載し、物事を論理的に解決できる手助けをしている。また、巻末には「表現する力を身につけよう」という場面が用意されており、レポート作成から発表までを意識したポイントや例を提示している。1年生では「まとめる」、2年生では「伝える」、3年生では「見直す」というように、学年の進行に合わせたレポートの目標設定がされている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○生徒が対話の中から自ら問題や目標を発見し、問題を解決するまでの過程を養う流れができています。数学が身のまわりなどで役立っていることを知る事ができる「役立つ数学」では実際に仕事に役立っている人の話に触れることで数学の有用性を実感できるとともに、キャリア教育としての一面も見出すことができる。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○3年生では、生徒の疑問や深めた学習を高校数学の内容につなげ、挑戦することができるような教材が用意され、次のステップへの興味・関心を高めている。また、各学年の巻末の折込には、プログラミング的思考や論理的思考を身につけるために、スクラッチを使ったプログラミング体験ができる教材が用意されている。</p>
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○具体物を操作する活動と数学的に考えたり説明したりする活動を結び付け、興味・関心を高める工夫をしている。また、各章の最後の「各章を学んで」では、自分ができるようになったことを振り返り、さらに学んでみたいことを記述させることで、学習を終えた疑問を今後の学習につなげられるようになっている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○既習事項との差異や共通点を見出す「ふりかえり」や既習事項から予想し新しい学びへつなげる「深めよう」を設け、理解の定着を図りながら進めることができる。巻末の折込には、ホワイトボードマーカーで書いたり消したりできる「アイデアボード」を添付しており、個人で考察する際やグループで考えを出し合う際に役立てることができる。また、QRコードを活用した解説や動画・アニメーション等のコンテンツが用意され、授業や家庭学習の補助的な教材が充実している。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○各章ごとに色が決められていて、統一感のある色遣いになっている。重要な事項を紹介する部分や対話を提示する部分では、枠で囲むだけでなく背景色もつけて、印象付けるように工夫されている。</p>
表記・表現	<p>○インデックスが色分けされていて、各章の色遣いに統一感がある。各章の数学的な活動を促す場面では、ページの左にどんな活動をしているのかという流れが示されていて、活動への意識が明確になる工夫がされている。中学生のキャラクターが対話している様子が登場し、考え方の視点や対話の方向性を示している。</p>
総 括	<p>○数学と実生活、中学校と高校、1年生と2年生の「つながり」を意識した教科書になっている。そのため実生活からの疑問を、数学的な問題にして、数学的な見方・考え方を通して解決する。そして新しい疑問を発見するという流れが実感できる。問題解決までの手立てや方針、視点が細かく記述されているため、生徒が家庭学習でも使いやすい教科書となっている。</p>

数学科調査資料 作成の観点

書名	17
項目	『 中学数学 』 教出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○基礎・基本の習得が生徒にとって無理なく進められるように、例・例題と問の間に「たしかめ」が設けられている。「たしかめ」では、例・例題に書かれていることを他の問題で行うことによって、学力に不安のある生徒も確実に理解できるように工夫されている。また、よく見られる誤答例を取り上げ、誤りを正しく直したり、注目したりすることで、同じまちがいを繰り返さないように示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題解決のプロセス（進め方）を示したページがあり、数学的な考え方、活用・意味づけ、統合・発展・体系化などの一連の過程を体験することができるようになっている。そうすることで、未知の問題を解決する力が徐々に育つように工夫されている。また、ノート例の提示がされており、友達の考えや気づきなどノートに書いておきたいポイントを紹介し、よりよいノート作りをサポートしている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○すべて章のはじめには、数学が日常生活や実社会に利用されている事例を取り上げ、数学を学ぶ必要性や大切さを生徒が実感できるような題材で始まっている。また数学の世界をさらに広げたり深めたりすることができるように「数学の広場」を掲載している。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性> ○活用問題を章末と巻末に掲載し、理由や方法を説明する問題や統合的・発展的に思考する問題などに取り組むことで、思考力・判断力・表現力の育成がされるようになっている。また、「データの活用」の領域ではPPDACサイクルに沿って、学習活動を行うページを設けている。それに伴わせ、レポートの書き方の例も掲載している。</p>
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫> ○Qの場面では、作業、観察、実験、調査などの活動を通して、結果を予想したり、新たな法則や性質を見出したりする場面を豊富に設けてあり、数学の楽しさや良さを感じることができる。また活動の中で式・図・表・グラフなどを使って自分の考えを伝え合い、みんなで解決する学習ができるようにしている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫> ○巻末に、本文のたしかめや問に対応した問題を多数掲載しており、繰り返し練習することで、基礎・基本を定着させることができる。また、無料で使えるデジタルコンテンツが多数用意され、紙媒体では実現が難しい、動的な表現や3Dによる立体表現などを見せることで、学習内容の理解を促すことができるようになっている。図形の性質を予想するなど、学習活動のツールとして活用できるコンテンツも用意されている。</p> <p><レイアウトの工夫> ○中心的な内容と補足的な内容を一目で区別できるように、側注のデザインを工夫することで、読みやすくなり、注意力の散漫を防いでいる。また、認識されやすい配色をするとともに、図の形を変えたり、番号等を付記したりして、色以外でも区別できるように配慮している。図や表、写真、キャラクターを用いることで生徒が理解しやすくなっている。</p>
表記・表現	○巻頭の「数学的な考え方」では、数学の学習を進める上で大切にしたい数学的な見方・考え方を紹介している。本文中でも強調されている箇所がたくさんあり、折込を開くと、どのページでも数学的な見方・考え方の一覧を見ることができる。
総 括	○身近な題材を取り上げた導入課題を設定し、そこで発生した「問い」をもとに、生徒が主体的に問題解決を進めることができるようにプロセスが示されている。「学びのマップ」でいつでも既習事項をふりかえることができる。教科書全体の内容は基礎的な内容が中心であり、解説が1つ1つ丁寧にかかれており、生徒目線の内容となっている。

数学科調査資料 作成の観点

書名	61
項目	『 未来へひろがる 数学 』 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○「例・例題」→「問」→「練習問題」と細かく丁寧に書かれていて、授業の展開と生徒の学習に隔たりが生じないように工夫されている。「章末問題」、「学びを身につけよう」、「もっと練習しよう」と多数の練習問題が設けられ、反復練習でき、知識・技能の習得を補助している。また「自分から学ぼう編」には「力をつけよう」が用意され、入試問題にも取り組むことができ、習熟度別の学習にも対応している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○思考の助けになるようページの下部に虫眼鏡のマークで「逆に考える」「問題の一部を変更する」「系統的に考える」の視点が与えられ、今後の学習や社会生活での課題に対する見方を養える。また「説明しよう」「話しあおう」「まとめよう」のロゴがちりばめられており、学んだことを表現することで、理解を深めたり、学びを広げたりする活動が補償されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○「みんなで学ぼう編」の巻頭には、「話すとき」「聞くとき」の方法やノートの取り方など、数学の学び方が示されていて生徒が取り組みやすくなるよう工夫されている。また、「自分から学ぼう編」の巻頭には「学びのあしあと」が用意され、自分が取り組んだ学びの記録をつけていくことができるようになっている。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○「データ活用」の領域では、統計的に問題を解決する際のPPDACサイクルに沿って学習を進められるように工夫されている学年がある。実生活の場面を想定し、疑問がサイクルしていく様子もわかるように「疑問1, 2」と表されている。様々なデータを多面的に吟味し、批判的に考察する力を身につけることを意識した内容になっている。</p>
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○資料は、身近な内容や実際の経験にあるものから数学の歴史的なものまで様々であり、考えるきっかけがつかみやすくなっている。また教科書の中にQRコードが添えられており、生徒の自主学習の補助になるよう、それぞれの問題を解くときの大切なポイントや、詳しい解説を見ることができるようになっている。これにより家庭での学習が意欲的に取り組めるようになっている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○各章のとびらには身近な課題が起用されていて、生徒が「考えたい」「もっと学びたい」と思えるような資料となっている。また「みんなで学ぼう編」は横開き、「自分から学ぼう編」は縦開きと開き方を変えることで、生徒の興味を引く工夫がなされている。さらに、縦開きにすることで、机の上に教科書とノートを置きやすくなっている。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○すべての時間に「めあて」が例示されるとともに、それに対応した「まとめ」が示されている。また、図や表、グラフは色付けされていて、直接書き込めるようになっている。課題や問題を提示する際には、意味や文節で改行する工夫がされていて、読みやすさや意味の把握しやすさを意識した構成となっている。</p>
表記・表現	○各単元の「課題」「ひろげよう」「例」「問」「例題」「まとめ」は、それぞれ色分けされており、マーク等で強調されていてわかりやすくなっている。また、新しい用語や記号などは太字で書かれ、読み方も記されている。考え方の補助となる言葉はキャラクターの吹き出しなどで記されている。
総 括	○スモールステップでの丁寧な内容となっていて、生徒が自分で学習することができる内容となっている。また、授業での学びあいと家庭学習をつなげる内容が用意されていて、習熟度の高い生徒が自ら学びを深めることもできるようになっている。さらに、身近なこととのつながりを意識した問題が多く、生徒が主体的に学び、仲間と対話し、学びを深める工夫がなされている。

数学科調査資料 作成の観点

書名	104
項目	『 これからの 数学 』 数研
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○各章のはじめで、その章に必要な既習事項が確認され、教師や生徒の吹き出しを設けることで、対話による「数学的な見方・考え方」が可視化されている。また、例題の解答が最後まで丁寧に書かれ、復習しやすくなっていたり、巻末に「チャレンジ編」が用意されていたりと、習熟度別学習にも対応できるようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○課題を進めていくプロセスが対話の形で示されていて生徒が主体的に考えやすくなっている。多様な意見を紹介するシーンも用意され比較検討することで理解を深めることができる。説明を求める問いかけが多いだけでなく、説明を求めていない問いにも対話を入れて、数学的言語活動の重要性を意識している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○前後の項目や問題がつながっていくストーリーを入れることで、問題の解決から疑問を持ち、新しい問題を見つけるというつながりを自然に感じられる。身の回りの課題を単純化して問題にすることで、数学を利用して考えることの実用性を感じられるようになっている。別冊には本冊の学びを自然に発展させる工夫がされていて、意欲的に発展課題に取り組める。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○別冊の探究ノートの問題を通して、問題発見・問題解決の力を高められるようになっている。本冊を学びながら疑問を持たせ、それを発展して問題をつくることで自ら問題を発見する意識を持たせている。ノートやレポートの書き方、発表の仕方がわかるガイダンスページが充実していて、数学の学び方を定着することができる。</p>
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○各章のはじめに既習事項のふりかえりが設定されていて、学びに導入しやすい工夫がされている。問題解決のプロセスを示しながら登場人物の対話を手掛かりにして生徒自身で学びを進められるようになっている。また、中1ギャップ解消のために、中1の教科書では、質問の語尾を小学校の教科書にあわせている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○教科書に記載されたQRコードやURLを読み取ることで、デジタルコンテンツを活用することができる。基本的な問題に取り組み家庭学習を充実できる「補充コンテンツ」、動画資料や図形の操作を通して、イメージを持ちやすい工夫がされていたり、関数や図形の条件を変えられる「イメージコンテンツ」で考察しやすくなったりしている。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○中心的な内容と補足的な内容を一目で区別できるように、側注のデザインを工夫し、生徒にとって読みやすく、注意力の散漫化を防ぐように工夫されている。また、図形等を色分けする際には、色覚の特性に配慮している。教科書全体を通して色、デザインが統一されており、扱いやすくなっている。</p>
表記・表現	<p>○生徒や先生、キャラクターの会話から学びの道筋の見通しが持てるようになっていたり、数学的な見方の指針になっていたりする。また、対話的な活動を誘うような問題を設定したり、対話的活動を中心に考えたり、生徒が親しみやすい工夫がされている。さらに、ノートの書き方や発表の仕方などを巻頭に示し、より充実した学習が進められるようにしている。</p>
総 括	<p>○数学的な見方・考え方を働かせるプロセスを大事にしている、対話的活動から、思考力・判断力・表現力を磨くことができるようになってきている。教科書全体が、問題解決型の学習を前提に構成され、実生活への広がりを通して、数学の実用性が実感できるようになっている。対話を読み進めながら学習を進められるため、生徒個人の力でも学習内容を十分理解することができるようになってきている。</p>

数学科調査資料 作成の観点

書名	『 中学数学 』	116
項目		[日 文]
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○各章の前に「次の章を学ぶ前に」が用意され、次の章を学ぶために必要な知識及び技能を復習できるようになっている。既習事項を復習したり学び直したりする機会を設けることで、つまづきを未然に防ぎ、これまでに学んだことを次の学習に生かせるよう工夫されている。また、リンクページの記載があり、自身のレベルに合わせて学習を選択することができる。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○それぞれの学習場面で働かせるべき数学的な見方・考え方を具体的に示すとともに、条件替えを効果的に用いながら、同じような論理的な思考を繰り返し意識させることで、さまざまな問題解決の場面で数学的な考え方を自在に働かせることができるようになっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○身近な事柄から数学の問題を見出したり、観察や操作、実験などの活動を通したりして、実感を伴った学習に取り組めるようになっている。各学年の巻頭に「数学の学習を始めよう！」があり、数学的活動を通した問題発見・解決の過程と学び方や学習の過程を振り返ることができるようなノート作りのポイントを示している。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○現実の世界の事象を理想化したり単純化したりして数学の問題にする過程を主に、章の扉や小節の導入場面で扱っている。経験したことから数学の問題を見出す過程は、小節の終盤や小節末の「次の課題」で扱っている。また、全国学力・学習状況調査で正答率が低かった問題を扱うなど学力の底上げができるように工夫されている。</p>	
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○生徒が直面する安全、防災、ESD、SDGsなどの現代的諸課題について数学で養った力をつかって取り組める資料が掲載され、学んだことを生かそうとする意欲が育まれることが期待できる。また、他教科と関連する資料も随所にちりばめられ、横断的な学習が期待できる。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○「学び合おう」には、切り離して使える「対話シート」が巻末に用意され、自分の考えを整理したり、互いの考えを伝え合うために使用したりすることで思考力や表現力を高める工夫がなされている。また、このシートはノートよりも小さくなっている。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○特別支援教育・ユニバーサルデザインの観点から文字フォントはUDフォントを採用し、多くの生徒が見やすくなるように工夫されている。また漢字を読むことが不得意な生徒のために、ふりがなを増やし、フォントもUDゴシック体を採用している。</p>	
表記・表現	<p>○初出の数学用語、重要事項、問題や課題・めあて、まとめはマークや囲みで強調されている。図形の定義は巻末にまとめられてあり、分かりやすく色分けされている。</p> <p>○生徒が親しみやすいよう中学生風のキャラクターが用いられ、吹き出しや会話で考えるきっかけを与えるようになっている。</p>	
総 括	<p>○レディネステストから始まり、生徒が取り組みやすい章のとびらがあり、スモールステップで主体的に数学の知識・技能をつけられるようになっている。そして、数学的な見方・考え方を重視した注釈が見られ、リンクページを記載することで生徒がそれぞれの習熟度に合わせて学習を選択することができる。3学年を通じて、データの活用を丁寧扱っている。教科書全体の問題としては基礎重視で一時間の構成が見やすくなっており、教師が授業づくりを行いやすくなっている。</p>	

理科調査資料 作成の観点

書名	『新しい科学』	2
項目		東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○観察、実験に必要な操作や器具について、「基礎操作」として観察、実験前や巻末の資料としてまとめられている。つまずきやすい問題には「例題」「練習」「確認」が設けられ、類似した問題に取り組んで基礎・基本の定着を図っている。公式や重要事項の「ここがポイント」や、章のまとめの「学んだことをチェックしよう」、単元のまとめの「学習内容の整理」、「確かめと応用」として示され、重要語句や基本事項を確認している。Dマークコンテンツでは、動画による解説や練習問題等の学習を支える機能がある。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○探究の進め方について、漫画を用いて解説されたり、ページの下部に探究の流れのフローチャートが示されたりしている。各節において、課題に対する結論を自分の言葉で書く場面を設けており、思考力や表現力を育成しようとして図られている。実験の考察でも、キャラクターのセリフによるヒントや細かくステップ分けされた発問等により、段階を踏んで考えられるように工夫されている。単元末の「確かめと応用 活用編」では、活用型の問題にも対応している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○各節の導入の「レッツスタート」で問題が問いかけられ、主体的に学習する意欲を向上させる意図が見られる。各節末においては、「学びを生かして考えよう」が設けられ、学んだことを生かして発展的な内容につなげている。各章扉と章末で「Before&After」が設けられ、学習の前後で自己の変容を知り、自己肯定感が高められるように工夫している。単元末の「科学の本だな」では、科学の読み物が紹介され、さらに学習したい生徒の関心に応えようとして図っている。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○コラム「つながる科学」は、「くらし」や「自然のふしぎ」、「働く人」、「防災」など、内容によって分類して紹介され、日常生活や社会と学習内容との関連を示し、理科の学習の有用性が実感できるように工夫している。数学や社会、技術・家庭、保健体育など、様々な教科との関連が「～で学ぶこと」のマークで示され、教科との関連が図られている。</p>	
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○各学年に「ペーパークラフト」が付録され、教材への興味・関心の向上に寄与している。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○巻頭・巻末の資料として、実験器具の操作の仕方や理科の学習全般に関わることなどがまとめられ、生徒が苦手な内容や、より深めてもらいたい内容を掲載し、学習をサポートしている。デジタルコンテンツが有効な箇所には「Dマーク」が示されている。教科書内の写真や図版に加え、映像資料やシミュレーションなども収録されている。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○教科書のサイズは「A4スリム判」を用いており、本文の位置を左側にそろえたり、観察、実験の方法を上から下へ縦に並べたりすることで、視線が上から下へ自然に流れるように手順や注意事項をわかりやすく示し、安全に観察、実験を実施できるように配慮している。</p>	
表記・表現	<p>○本文はユニバーサルフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。中1ギャップに対応できるよう、1年生の文字サイズは大きくなっている。</p> <p>○観察、実験の手順や考察の場面では、キャラクターのセリフなどで思考の手助けを行う工夫をしている。セリフについては、文章を読みやすくするため、単語の途中で改行しないようにしている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で理科と日常生活との関連や探究の流れ、教科書の使い方について示している。単元配列は、各単元の内容の関連性や教材の入手時期などを考慮して配置されている。また、生徒の科学的概念の形成にも配慮している。</p> <p>○単元末には「学習内容の整理」と「確かめと応用」が示されている。</p> <p>○巻末には、「自由研究」についてや「実験器具の基礎操作」などがまとめられている。また、自分で作成できる、地学単元のペーパークラフトが付録されている。</p>	

理科調査資料 作成の観点

書名	4
項目	『 理科の世界 』 大日本
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○単元末に「まとめ」「単元末問題」「読解問題」が掲載されており、特に3年生の教科書の巻末では1～3年の基礎的な内容を確認できる「学習のまとめ」が掲載され、高校入試への対応が意識できるようになっている。「基本操作」は巻末にまとめられており、復習しやすい構成になっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○観察、実験では、「結果の整理」「結果から考えよう」を設け結果・考察ポイントを明示することで、考察する手立てを与えることができている。単元末の「読解問題」では、学んだことを活用するような問題が出題され、思考力、判断力、表現力を育成する場面を創出している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○各単元の導入部分を中心に、学習内容に関する印象に残る写真を採用し、学習への意欲を喚起している。「問題を見つけよう」「やってみよう」などの項目を通し、主体的に学習させるための工夫がある。自然環境に関する資料には「環境マーク」をつけ、環境問題への興味の啓発を意図している。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○単元末に「課題を見つけて探究しよう」を配置し、探究活動の手段を例示したり、「自由研究にチャレンジしよう！」では、学習内容をもとに探究の題材を示すことで、探究活動の機会を創出している。発展「くらしの中の理科」を各所に配置し、日常生活や社会との関連を多数紹介している。また、他教科で学習した内容について、「つながる」マークを付け、教科間の関連をわかりやすく示している。</p>
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○学習内容に関連する多様なコラムを多数掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝え、学習意欲の啓発に努めている。導入場面では、身近な事例が多く取り上げられており、関心高く学習に取り組むことができる。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○単元末のまとめに語彙が解説と共に整理され、単元で学んだ語彙を復習しやすい。また3学年の巻末では、中学校での学習のまとめが掲載されており、3年間の復習に活用できる。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○図表やイラストなどが非常に整理された配置となっているだけでなく、写真は大きく非常に見やすくなっている。章の始めに、既習事項とこれから学習することを同ページに記載し、学習に見通しを持って行えるようになっている。</p>
表記・表現	<p>○UDフォントを使用したり、イラストに吹き出しやコメントを用いたりするなどして、多くの生徒が親しみやすい表記を実現しており、全領域を通して、統一した色使いを意識している。また、1年生の本文や囲み資料は2・3年生よりも大きくしたり、発展的な内容を精選して最小限にとどめたりするなど、発達の段階に考慮している。</p>
総 括	<p>○巻頭で学習の進め方や教科書の使い方などを示していることで、学習の流れを理解し見通しをもって探求し、主体的・対話的な学習ができる。</p>

理科調査資料 作成の観点

書名	11
項目	『中学校科学』 学図
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○観察、実験方法の説明にはイラストではなく、大きな写真を用い詳細で丁寧な説明がされている。QRコードを読み込み、整理番号を入力することで、基本問題だけでなく、実験器具の基本操作動画、アニメーションなどのデジタルコンテンツを利用することができ、家庭学習に有用と考える。各単元末では活用問題に取り組むことができる。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○観察、実験の場面に限らず、「この時間の課題」とその解決に迫る「見方」や「考え方」について具体的な記載があり、思考を深める一助となっている。観察、実験の際は、吹き出しで探究のヒントや考え方を示し、自身での考察をしやすくする工夫がある。各単元末の『学びを日常にいかしたら』では、学習内容の生活との関連を意識できるだけでなく、それらの事象を科学的に思考し表現す問題となっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○各章の始めと終わりに『Can-Do-List』を掲載し、各章での学習の達成目標が示されており、主体的に学習させる工夫がある。単元末の『学び続ける理科マスター』では、今までの学習を生かし深く学んでいくためのヒントが示されている。また、単元末問題は、様々な生活場面を題材としており、科学(学習内容)と実生活が深く結びついていることを実感できるものとなっている。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○理科の特質でもある観察、実験では、その方法の説明が丁寧であり、確実に観察、実験が行えるよう配慮されている。また、観察、実験における探求の場面にも『Can-Do-List』を掲載し、本観察、実験がどんなことを探求しているのかが具体的に示されており、目的意識をもち観察、実験に取り組むことができる。</p>
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○単元の始めに魅力的なフレーズを載せ、これから学ぶ内容に対し興味を惹かせている。また、コラムの「ミッションカフェ」や「サイエンスカフェ」を掲載し、科学を学ぶ有用性や意義を伝える工夫をしている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○章の始めの Can-Do List で、この章における観点別目標を示すことで、生徒が目的意識を持って学習に取り組むための工夫がある。資料を読み込んで答える記述問題を掲載することで、表現することへの習慣化が期待できる。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○写真を大きめにレイアウトし、視覚的な情報が得やすくなっている。特に観察、実験では、探求の課程が意識しやすいレイアウトとなっている。</p>
表記・表現	<p>○デジタルコンテンツ教材を多用し、教科書の軽量化に寄与している。また、サイズが大きいUDフォントをし、紙面デザインをシンプルにすることで、紙面からの圧迫感を少なくさせている。</p> <p>○グラフの線は色だけでなく、線種に違いをつけるなど、教科書全体の文字や図などの視認性を高めている。また、全領域を通し見出しや実験などの色を統一している。</p>
総 括	<p>○教科書の軽量化のために、内容が厳選されている一方で、記載観察、実験数は多い。しかし、その観察、実験に関する記載は、余裕をもったレイアウトがされている。コラム等の記載は少なく、それらはQRコードにより、コンテンツから参照できるようになっている。</p> <p>○巻頭で理科を学ぶ意義や教科書の使い方などを示している。単元配列は、想定する年間指導計画に沿って系統的に配列され、生徒が見通しを持って学べる作りとなっている。</p> <p>○巻末にアイデアボードが付録されており、意見交換をさせるためのツールとして繰り返し利用できる。</p>

理科調査資料 作成の観点

書名 項目	『自然の探求 中学理科』	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○観察、実験についてのページでは、手順が言葉だけでなく図や写真を用いて示されている。また、巻末資料でも、実験器具や装置の操作などが、「基礎技能」としてイラストを用いてまとめられている。章のまとめに「要点をチェック」、単元のまとめには「要点と重要語句の整理」や「基本問題」が設けられており、重要語句や基本事項を確認している。「学年末総合問題」は、1年間に習得した知識・技能を活用する問題となっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○巻頭には、「探究の進め方」が折り込みとして閉じられており、探究の流れを確かめながら学習に取り組める。巻頭の「レポートの書き方」や本文中の「私のレポート」の掲載により、レポート作成を通して思考力や表現力を育成するためのサポートをしている。実験、観察では、図やイラストを用いて手順が示され、考察の視点を明確にして考えられるようにされている。章末の「要点をチェック」や単元末の「基本問題」に加え、「学年末総合問題」が設けられ、作図や記述問題等で思考力や表現力を育成する場面を設定している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○単元の導入として、身近な事物・現象や不思議な現象を見開き2ページにわたったダイナミックな写真で紹介し、興味・関心を引こうとしている。各章には、「学習前の私」、「学習後の私」が設けられ、学習の前後で変容を実感できる。観察、実験だけでなく、「やってみよう」や「チャレンジ」といった学びを促す活動が設けられている。巻末には、学習に活用できるカードやペーパークラフトが付録されており、生徒の興味・関心を引くよう工夫されている。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○コラム「ハローサイエンス」は、日常生活と理科の学習内容との関連が図れる内容となっている。他教科との関連としては、「ブリッジ算数」・「ブリッジ数学」や巻末の「理科で使う算数・数学」において算数・数学との関連を図っている。</p>	
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○学習内容と生活、安全、歴史、環境、日本の伝統文化などとの関係を示したコラム「ハローサイエンス」が随所に掲載されており、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○教科書の内容と関連のあるコンテンツ（図鑑やサイト等）を集めたウェブサイト「まなびリンク」が、QRコードやアドレスから活用できる。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○AB変型判により、ゆとりのある紙面となり、実験、観察の手順や図版を大きく掲載している。また、本文と図や写真を、思考の流れが学習展開から逸れることのないよう、文章を読みながらそれと対応する写真や図が見られるような配置をしている。</p>	
表記・表現	<p>○本文はユニバーサルフォントを、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。特に、重要語句には明るい橙色の太字となっている。また、中学校配当漢字及び常用漢字には、見開きごとに振り仮名をつけている。</p> <p>○探究や課題解決等のマークや、キャラクターの吹き出し・コメントが示され、生徒の思考のヒントとなっている。</p>	
総 括	<p>○巻頭で「なぜ理科を学ぶのか」や「探究の進め方」について示している。単元配列は、各学校の実態に応じて指導できるよう、基本を押さえつつゆとりのある内容となっており、さらに発展的な内容についても触れている。</p> <p>○単元末には「要点と重要語句の整理」と「基本問題」が示されている。</p> <p>○巻末には、「学年末総合問題」や「基礎技能」などがまとめられている。また、学習に活用できるカードやペーパークラフトが付録されている。</p>	

理科調査資料 作成の観点

書名	61
項目	『未来へ広がるサイエンス』 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○単元末の学習のまとめでは、新出単語がでてくるページが明記してあり整理しやすい。また、章の始めに、既習内容が確認できる問題のサイトがQRコードにより示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○各単元に『探Q実験』を設定し『探Qシート』を用いて、深く探求する場면을効率的に創出している。さらに、各章、節ごとに疑問や課題を提示し、見方・考え方のみを与え、安易にその解答を示さず、生徒自身に考えさせようとしている。単元末の「力だめし」では、基本問題だけにとらわれず、全学調での課題や高校入試の新傾向に対応したような問題を扱っている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○章導入の「つながる学び」や本文中の「思い出してみよう」で小学校理科の内容や既習事項を確認し、新たな学習に入れるようにしている。「みんなで探Qクラブ」では、日常の疑問を対話形式で表記し、自分自身が探求したくなるような場面が用意されている。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○単元末には『みんなで探Qクラブ』が設定されており、授業で得た知識をもとに探求活動が実践できるようになっている。また、『部活ラボ、お料理ラボ、お仕事ラボ、防災減災ラボ』といったコラムを各所に配置し、実生活との関連を多数紹介している。さらに、他教科との関連性が紹介されており、教科横断的な学習にすることができる。</p>
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○単元の最初に大きな写真があり、インパクトがあって興味を引く。さらに、「学ぶ前にトライ」で身の回りにある疑問について考え、単元を学ぶ上で「なにができるようになるか」の見通しが立てられる。また、QRコードが豊富に用意してあり、デジタルコンテンツを見て授業内容を深めることもでき、家庭学習するときにも確認で見ることができる。理科の有用性を感じるコラムも多く掲載されている。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○単元を「学んだ後にリトライ」では、学習後に単元前に行った問題と同じ問題を解くことで、自分の成長を実感することができる。</p> <p>○『もくじ』や『さくいん』が整理され、情報が探しやすくなっている。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○文字がユニバーサルデザインフォントになっており、読み間違いが少なくなっている。</p> <p>○科学コラムが節末にまとめられ、学習展開が途切れないように配慮されている。</p> <p>○防災・減災的な視点からの資料が全学年分ある。</p>
表記・表現	<p>○目次・重要語句の記載については、本文の中でも非常に目立つフォントを使用しており、非常にわかりやすい。</p> <p>○生徒の写真やイラストは、男女の役割は固定せずに、互いに協力しながら活動しているようにするなど、性別や人種、身体的特徴に配慮されている。</p>
総 括	<p>○ページ数のボリュームも多い上に、QRコードによる様々なコンテンツが利用できるため、多様な学習が可能となっている。探求活動についても、よく考えられている。</p> <p>○図・資料・文のレイアウトがとても見やすくストレスなく目を運ぶことができる。</p> <p>○コラムが多く、内容に関する興味関心を引くことが多い。</p>